豊平ウイング屋根改修工事

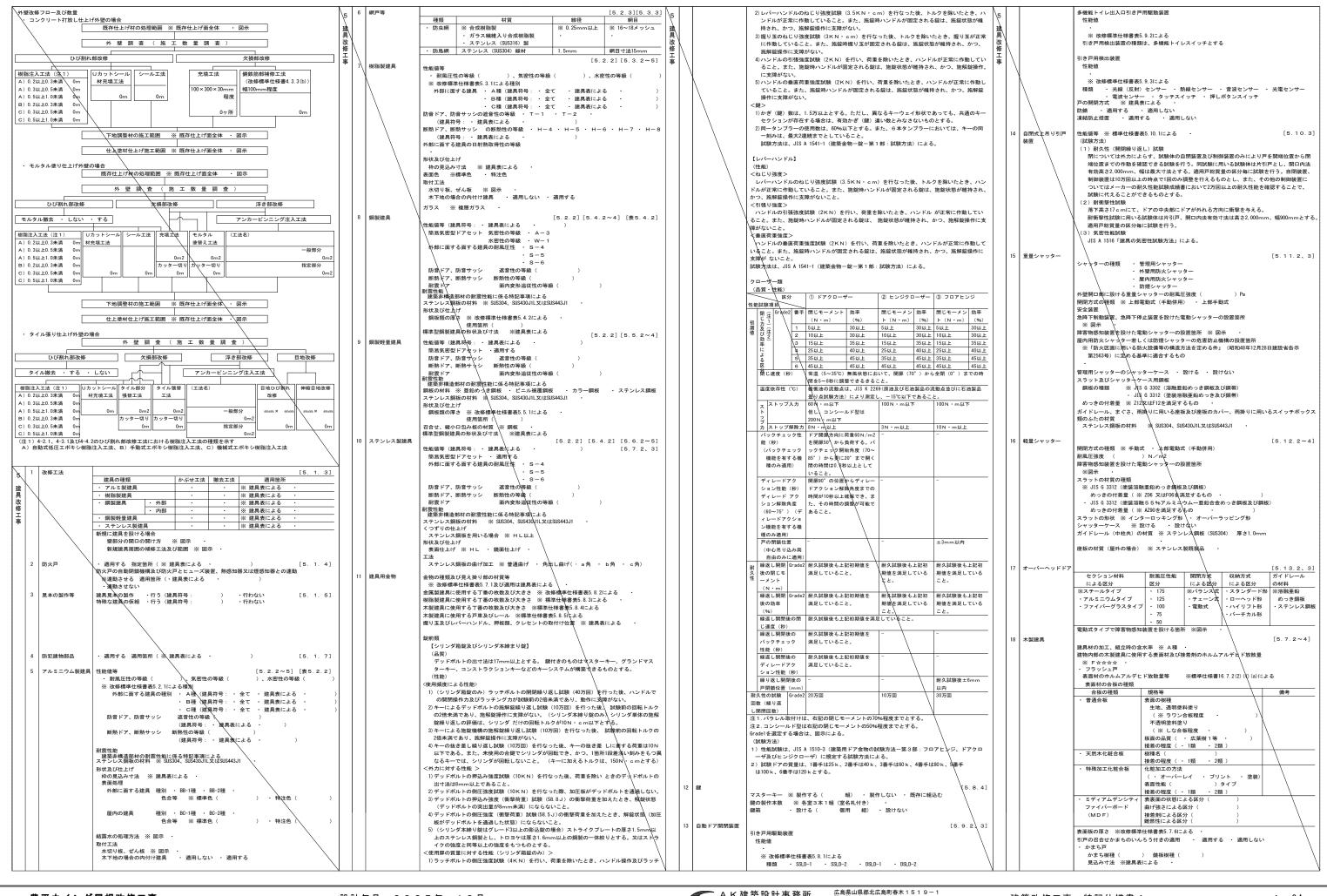
図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称 図番	図面名称
A -01	建築改修工事 特記仕様書 1	E-01 電:	気設備工事 特記仕様書					
A -02	建築改修工事 特記仕様書 2	Е−02 避	雷設備 屋根伏図					
A -03	建築改修工事 特記仕様書3	Е−03 避	雷設備 立面図					
A -04	建築改修工事 特記仕様書 4							
A -05	建築改修工事 特記仕様書 5							
A -06	建築改修工事 特記仕様書 6							
A -07	建築改修工事 特記仕様書7							
A -08	建築改修工事 特記仕様書8							
A -09	付近見取図、配置図							
A -10	設計概要、外部仕上表							
A -11	1階平面図							
A -12	2階平面図							
A -13	3階平面図							
A -14	屋根伏図							
A -15	立面図 1							
A -16	立面図 2							
A -17	断面図							
A -18	断面詳細図 1							
A -19	断面詳細図 2							
A -20	屋根要領図、内樋詳細図							
A -21	部分詳細図							
A -22	トラス全体図 1							
A -23	トラス全体図 2							
A -24	梁、母屋伏図							
A -25	仮設計画図 配置図(案)							
A -26	外部足場図(参考) 3階平面図							
A -27	外部足場図(参考) 屋根伏図							
A -28	外部足場図(参考) 立面図 1							
A -29	外部足場図(参考) 立面図 2							
A -30	屋根足場図(参考) 立面図2							
	外部足場図(参考) 断面図							
A -32	外部足場図(参考) 断面詳細図 1							
A -33	外部足場図(参考) 詳細図							

	事名称 : 豊平ウイング		7 建設発生土	※ 現場説明書の施工条件明示による ・槙内指示場所に堆積	1 12 調査のための破壊部分の 補修	補修方法 ※図示 補修範囲 ※図示	1 18 電子納品	※電子納品対象工事とする 電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終結果を電子データで納品すること」をい う。ここでいう電子データとは、「営繕工事電子納品要領(以下、要領という)」に基づいて作成
3. 敷均4. 構造		. 49㎡	(8) 環境への配慮 [1.4.1]	・横内指示場所に敷き均し 化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、 次の(1)から(4)を満たすものとする	般 共 通 事 項	工事種目 技能検定職種 技能検定作業 仮設工事 とび とび作業 防水改修工事 防水洗工 アスファルト防水工事作業 ウレタンゴム系塗銀防水工事作業	股出通	ったした。
*工事 (1) 公 (2) 公 (3) 公 8. 公勞 (1)) (2) 9. 现起 工事 (1) (1)	金工事 管協力について は江事中及び竣工後、次の記 公共事業労務費調査・・建設工事事 会計算金・・建設工事 会計算金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	いては、海砂(県外産を含む)を使用しないこと		(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質連材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩磨材、断熱材、塗料、仕上発材は、アセトアルデヒド及びステレンを発放しない又は発散が極めて少ない材料で、設好回書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する (2) 接着剤及び差針にトルエン、キシレン及びエチルングンの含者量が少ない材料を使用する (3) 接着剤は、可塑剤(フタル酸ジーnープチル及びフタル酸ジー2ーエチルへキシル等を含有しない実施発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する (4) (1) の材料を使用して作られた家長、書架、実験を、その他の什器類等は、ホルムアルデヒドスでセアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は公に該当する材料を指す。 () 遠葉基準法能行令第20条の第7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド系放建業材料以外の材料 (2) 遠葉基準法能行令第20条の第7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 (3) 遠葉基準法能行令第20条の第7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 (3) 遠葉基準法能行令第20条の第7第5項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 (3) 遠葉基準法能行令第20条の第7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 (3) 遠葉基準法能行令第20条の第7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料		プレア - プレス - プレス - アクリルゴ / 大を提助 / 大工事作来	19 エ事中情報共有 システム ② 施工図及び施工計画書 ② 設備工事との取合い 数去部分 23 適用区分	また。成本由注加の際には、ソイルへ列来を失起したつえた後回すること (1) 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換、共有することにより、業務の効率化を図る情報 共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガ イドライン」に基づき実施すること (2) 本工事で使用する情報共有システム(http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html)) (3) 監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者 (以下「サービス提供者) と いう」との契約は、受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者 (以下「サービス提供者) と いう」との契約は、受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者。以下「サービス提供者」と いう、との契約は、受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者。以下「サービス提供者」と いうとの契約は、整営職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行 うためのアンケート等が求められた場合、協力しなければならない 提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする 建築基準法に基づき定まる風圧力及び精雪荷重の算定には次の条件を用いる
Ⅱ.建築	広島県内に主たる営業所・: 改修工事仕様	むを得ず工事の一部 (主体的部分を除く) を第三者に譲け負わせようとする場合は、原則として 本店を有する業者に発注するものとする		範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする 材料・機材等の品質及び性能		一		基準風速 Vo= m/s 地表面相度区分 ・I ・II ・IV 積雪区分 平成12年5月31日建設省告示第1455号 別表())
B 模 2.射	(建築工事編) (令和4年版 園面、本特記仕様書及び改修・ 等配仕様書 (1) 項目は番号に〇印のつい: 〇印のつかない場合は 〇印と ② 印のつい: 〇印 (3) 項目に記載 [] の(() の内表示音((4) 工事施工上必要な官(たものを適用する ※部のついたものを適用する と場合は共に適用する 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 書その他への請手続き及び届出は、全て受注者の負担において遅滞無く行うこと 引く祭例を含む)、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等に 護すること。	(1. 4. 2)	(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとよう。 (2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 (3) 標準仕株着に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする (4) 本工事に使用する材料のうち、(5) に指定する材料の製造業者等は、次の①~⑤の事項を滅たすものとし、その証明となる資料(外部機関が発行する証明書の写し)を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない ①品質及び性能に関する試験データを整備していること ②決定的な供給が可能であること ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること ⑥製造又は施工の実施があり、その機能があること	14 化学物質の濃度測定 [1.7.9]	表装 型装作業 財震改修工事 とび 鉄統 生	24 騒音・振動の防止 施工中の安全確保 ② 実施工程表 [1.2.1] ② 工程報告 保証書	「低騒音型・低振動型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用する ・ 同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は、労働安全衛生法第30条第2項に基づき、当該工事について、同衆第1項に規定する措置を講ずづき者として本工事現場代理人を指名する・労働安全衛生法第15条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者を担保制と書」(任意株式)を提出すること 工事期間は建築設備を含んだ期間とし、工事全体を把握して作成し、監督職員の承諾を受ける 別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月1回1部提出すること 次の工事について保証書を提出すること 工事区分 材料名 ・ 保証年数 ・ アスファル・防水 年 選水の場合等 ・ 改質アスファル・シート防水 年 選水の場合等 ・ 企成高分子ルーフィング防水 年 選水の場合等 ・ 全販防水 日 東本の場合等
章 ① ① :	項 目 遊用基準等	特 記 事 項 ※公共建築工事標準性様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁營繕部監修(最新版) ※建築工事標準詳細図 国土交通省官房官庁營繕部監修、最新版) ※建築工事体業詳細図 国土交通省官房官庁營繕部監修、最新版) ※建築工事公衆災害防止均策要編 ※進設副產物適正処理実施要領(広島県土木局制定) ※建築工事安全施工技術指針 ※再生資源利用促進実施要領(広島県土木局制定) ※県産木材の利用促進に関する指針		鉄合柱下無収縮とルタル 防水剤 無収縮グラウト材 現場発送断熱材 物気候護材 フリーアクセスフロア 既別合モルタル 可動能仕切 ルコードレン トイレブース 吸火開整材 天井点核口 錠前類 クローザ類 グレーチング 自動用機構 歴史を化システム 自動用機構 歴史を化システム 自動用機構 を対して トップライト		バッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ()30分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉 (進り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む)を 開放し、30分間換気する (2.5時間閉鎖 ()の後、測定対象室のすべての窓及び扉を5時間閉鎖する ただし、遠り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする (3)測定 イ (2)の状態のままで測定する ロ 測定時間は、原則として24時間とする。ただし工程等の都合により、24時間測定 が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時~3時	29 コンクリートの試験 (6.9.1~6) (2) 1 騒音・粉じん等の	※コンクリートの強度試験 公的機関又はこれに準する機関で行う。ただし、調合管理強度の管理試験用及び型枠取外し時期の 決定用については、生コン工場試験室でもよい 「騒音・粉じん等の対策・・防音パネル・防音シート [2.1.3]
3	電気保安技術者 [1.3.3] 工事実績情報の登録 [1.1.4]	図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次による。 ※建築物解体工事共通仕様書 令和4年版 国土交通省大臣官房官庁営繕部 ※配置する 受注者は、受注時又は変更時において請負金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)に基づき、受注、変更、竣工、訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し、監督職員の確認を受けた後に登録機関、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。また、途中変更時の登録が必要な場合とは、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。	10 石綿含有建材の 調査	重量シャッター ポリマーセメントモルタル 軽量シャッター 蘇鉄製みた 調査 ※ 石柿合有接材の事物調査		が測定時間帯の中央となるよう、10時30分~18時30分までの時間帯で測定する ハ 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する ⑤モの他 監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること (2) 木材の防腐・防蟠処理剤は、クロルビリホス、ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない 素剤とし、加圧示防腐・防蟠処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する (3) 保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発数が極めて少ない下 水☆次等級のものとする (4) 塗料、壁紙、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に面するものについては、ホルムアルデヒドを	対策 対策 足場等	防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲 ※ 工事に必要な範囲 ※ 工事に必要な範囲 [2.2.1] [表2.2.1] 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの 別紙1手すり先行主法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又 は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 が起足り、改置する(範囲 ※ 工事に必要な範囲) 設置しない 内部足場 ・設置する(※ 脚立、足場板等) 設置しない 材料・拠去状物の運搬が去 A種 ※ B種 ・ C種 D種 E種
(5)	施工条件 [1.3.5] 工事安全計画書	下記以外は現場説明書による。 ・施工時間帯 (※指定あり) ・部位別の施工順序 (※図示 ・) ・事性の別の施工順序 (※図示 ・) ・資機材置場 (※図示 ・) ・建設発生土保置場 (※図示 ・) ・建設発生土保置場 (※図示 ・) ・建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱(建築工事編)を参考に、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する	[1. 5. 1]	工事若手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿合有雄材の事前調査を行う。 貸与資料 () ・分析による石綿合有雄材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法 分析方法 分析方法 (定性) JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2 材料名 JIS A 1481-3、JIS A 1481-4 又はJIS A 1481-5	(B) 中間技術検査 [1.8.2] (G) 工事写真等	無数しないか、発散が極めて少ないド☆☆☆を験めものとする (5) 屋内に面して用いる材料は、上記 (2) ~ (4) に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め、(1) の規定を満たすこと ※行う(回数及び時期については監督職員の指示による)・行わない 下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の撮影は国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「営舗工事写真撮影要領」によるものとする (1) 工程写真 エ事の選携に伴い工事全体状況及び主要工程の写真 (カラー・サービス版) を期間別工事工程報告書に添付するものとする (2) 工事中写真 水中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分、及	③ 既存部分の養生	
	発生材の処理等 [1.3.12]	・引渡しを要するもの(・特別管理産業廃棄物(・規場において再利用を図るもの(・現場において再利用を図るもの(・再生資源化を図るもの ・コンクリート境 ・アスファルトコンクリート境 ・建設発生木材 ・PCB含者シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンブルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数 計 箇所 採取箇所 ※図示・ 第二次判定 専門分析機関にてPCB含者量の分析を行う。 分分省機関 計 箇所		- 箇所		が下へれた。「中国などならならい。」、 の一点人はながあからなまとめて完成検査日までに提出するものとする 「提出部数」: 1部 (3) 完成写真 「緩影箇所」建物外観各方向、主要箇所、主要室内その他監督職員が指示する箇所 「規格・提出部数」※ 4 4版クリアファイル 1 部 ・ A 4版写真台帳 部 「完成写真の撮影集者」・監督員の承諾する建築写真の専門撮影集者とする(施工前・施工後)。 (4) その他の写真 隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真(カラー・キャビネ版)を監督職員の指示により提出するものとする (5) 保管 エ事写真のデータは、受注者において工事完成後 2 年間保管すること	4 仮設間仕切り	仮設開仕切り及び仮設原の設置箇所 ※ 図示 [2.3.2] [表2.3.1] 仮設開仕切りの種別と材質等
		・除去処理工事 除去飽囲 ※図示・ ・せっこうボードの処理 ・石輪含有せっこうボード 改修特記仕様書第8素環境配慮改修工による ・ひ素・カドミウム含有せっこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分(管理型最終処分場) ・石輪合有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード ・再生実演化(再資源化施設) ・最終処分(管理型最終処分場) (1) 木工事で発生した施設疾棄物は、広島県、環境県民局)及び保健所設置政令市等(広島市、 呉市、福山市)が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設(許可対象とならない中間処 理施設にあっては、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設(許可対象とならない中間処 理施設にあっては、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設(で処理すること ただし、建設廃棄飲が破砕等・送別を含む)により有用物となった場合、その用途に応じ で適切に処理すること(原則、県内処分) (2) 本工事における再資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、前記(1)に掲げる施 設のうち受入れ条件が合うものの中から、運搬費と受入利費(甲の受入れ免費用)の合計	① 施工教整調查 [1.6.2]	調査範囲 ※外壁(庇、笠木共) (・)	(①) 完成時の提出図書	※提出を要する 完成図書:1部 竣工図の種類(※全て・) 東工図の作成方法 CAO (CAO データの提出(※要・不要)) 原図 - 普通紙 ※ 不要 竣工図 二つ折製本(・A1版 部・A2版 部 ① A3版 1 部) 竣工図に原則としてCADにて修正を行い、施工図・保全に関する資料で必要なものの提出は監督職員 の指示による なお、18 電子納品で対象工事である場合は、加えて電子成果品を 2部提出すること 工事完了時の建物仕様に関する資料(保全マネジメントシステム) ・提動基本情報 ・型式合権 工事完了時の建物使用に関する資料は、監督職員が指定する様式で作成する。	(⑥) エ事用水 (⑦) エ事用電力 (③) 仮囲い等の安全施設 (③) エ事現場の表示 (10) 交通誘導員 (11) 快適トイレモデルエ事	現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による 構内既存の施設 ※ 利用できる (※ 有償 ・ 無償) ・ 利用できない 構内既存の施設 ※ 利用できる (※ 有償 ・ 無償) ・ 利用できない 別紙設計図による 現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する ※工事名等の表示板 (900mm×600mm) ・ 工事概要等の説明看板 (900mm×600mm) ※配置する ・ 配置しない ※大型車両進入時 () 人/日 ・ 常時配置 () 人/日 ・ () 作業期間 () 人/日 本工事は快適トイレモデル工事 (※発注者指定型 ・受注者希望型) であり、「快適トイレモデル工事 試行要領 (令和4年6月1日一部改正)」に基づき実施するものとする。
		が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き、再資源 化に要する費用(単価)は変更しない (3) 本工事で発生する難設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物につい ては、広島県産産廃棄物埋立税が課税されるので適正に処理すること。なお、広島県産業 廃棄物埋立税は見込んでいる						(私) (大選 トペル・センド 1 日 一 回心正)」「感 と 2 光売 9 のの 2 7 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9

(3)	降雨等に対する	※ 改修標準仕様書3.1.3(5)(7)~(9)による。 [3.1.3]	(試験方法)	(3) 5 改質アスファルト	屋根露出防水	3	屋内防水防水降の種別	
防	養生方法	.	(1) 寸法の測定方法 (厚さ)供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4	防 シート防水	防水層の種別 [3. 4. 2、3] 工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反 備考	防	保護層	
水	2 既存防水の処理	既存保護層の撤去 ・ 行う(範囲 ※ 図示 ・) [3.1.4] [3.2.3、4、6] 水 改	点の平均値を求めてパネルの厚さとする。 (幅)供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央 1 箇所の幅寸法を、JIS B 7512「銅製巻尺」	水		水改	種別 施工箇所 平場のモルタル塗り 立上り部の保護モ 塗厚 工法 ルタルの塗厚	
修工		既存防水層の撤去 ・ 行う (範囲 ※ 図示 ・) 修 ア	に規定する目量が1mmの1級コンペックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する		・MA4S ・AS-T1 ・ ・ ・適用す	修工	・ S – C 1 ・ ・ ・ ・ 床塗り ※ 7mm以下	
事		・ 行わない 既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去	目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。 (2)曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は	事	- AS-T2 ※製造所 の仕様	事	・ 下地モルタル塗り・	
		・行う(・MAAS ・MAASI ・M4C ・M4DI ・L4X)	3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は		- M3AS - AS-T3 · · ・ ・適用す 脱気装置		屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ・	
		行わない	試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目につい		- AS-T4 ※製造所 る ・設ける		合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ	
	既存下地の処置	既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 [3.2.6] POS工法及びPOSI工法(機械的固定工法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等	ては、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。 (窯業系パネルII類は200サイクルまでとする。) なお、荷重を加える時の平均速度は、1~3		POAS - AS-JI の仕様 ・設けない 改修用ドレン		- JIS A 6008に基づく種類及び厚さ 用途による区分	
		の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4)(ウ)(g)①~③による・	分間で予想最大荷重に達する程度とする。		・設ける ・設けない		材料構成による区分 ※ R種	
		設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイブ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口 部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理	(3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 (4) 難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。		- M3ASI - ASI-T1 JIS A 9521(建築用断熱 - ・ ・適用す 脱気装置		厚さ (mm以上)	
		※ 図示。だたし、図示が無いものは監督職員と協議する・	(5)吸水による長さ変化率試験は、試験体 (幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム (試		・M4ASI ・ASI-JI 材)に基づく発泡プラス ※製造所 ・P0ASI チック断熱材 の仕様		固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工	
.	1 アスファルト防水	屋根保護防水 [3.3.2~5]	薬)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合す		(種類) 改修用ドレン		したもので、厚さ0.4mm以上のもの ・	
		防水層の種別	るシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が 140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて		※硬質ウレタンフォーム ・設ける ・設ける ・設けない		脱気装置の種類及び設置数量	
		・P 2 A ・A - 1 ※ポリエチレン ・乾式保護材 フィルム ・コンクリート	標線間の長さを測定し、それを基準 (L1) とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立て し、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。				接着工法の場合の脱気装置の種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 接着工法の場合の脱気装置の設置数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 (個)	
		・A-3	24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標		※25mm ・50mm ・		プレキャストコンクリート部材下地の目地処理(接着工法の場合) ・ 行う (・ 図示 ・) ・ 行わない	
		・B-1	線間の長さ (L2) を測る。 吸水による長さ変化率 (ΔL)は、次式によって求める。		改質アスファルトシートの種類及び厚さ		プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-Fi、SI-Fiの場合)	
		・P2AI・AI-1 (材質) ※フラット	(ΔL)= (L2 - L1) / L1×100 ΔL:吸水による長さ変化率(%) L1:乾燥時の標線間の長さ(mm) L2:吸水時の標線間の長さ(mm)		※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による		・ 行う (・ 図示 ・) ・ 行わない 機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け	
		※A I - 2 JISA9521に基づく押出法 ヤーンクロス	(6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって		JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分		1章 17 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法	
		・A I − 3	行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。 (窯業系パネル II 類は200サイクルまでとする。)		材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)	(A) ************************************	防水層の種別 [3.6.2、3]	
			凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5~35℃の清水中 に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、−20±3℃の気中で約2時間の凍結		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	② 塗膜防水	防水層の種別 [3.6.2、3] 工法 種別 佐上塗料 高日射反 備考	
		×25 · 50	20±3°Cの水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。		※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による		種類 使用量 射率防水	
		改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ	(7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に 準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。		JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分		<td color="1" color<="" rowspan="2" td=""></td>	
		※ 改修標準仕様書表3.3.5から表3.3.6による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ	試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは、銅製のなす形おもりとし、記号(W 1 - 1000)、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水		材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)		X - Z	
		用途による区分・	水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、		・ 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ		・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリ	
		材料構成による区分 ※R種 厚さ (mm以上)	裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。		※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ		 ・L4X※X-1 コン樹脂系 ※主材料の ・適用する 脱気装置 	
		部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※、み体標准仕体象率3、3.3から率3、3.4にトス			用途による区分・ 材料構成による区分・※R種		· X - Z + - X - Z +	
		※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.4による - JIS A 6013に基づく種類及び厚さ	屋根露出防水 防水層の種類		厚さ (mm以上)		・P1Y ※Y-2 保護層 ・設ける・設けない	
		用途による区分 ・ 材料構成による区分 ※ R種	工法 種別 施工 断熱材 仕上塗料 射率の防 備考		脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定・		· P 2 Y ※Y − 2 保護層	
		厚さ (mm以上) 平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ			脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・ (個) 立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法		・設ける ・設けない X - 1 (絶縁工法)の脱気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 ・	
		こて仕上げ ※ 水下 80mm以上 ・ 床タイル張り ※ 水下 60mm以上 ・	- M4C - C-1 - 適用する ※製造所		※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・		X-1 (絶縁工法)の脱気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 ・ (個)	
		乾式保護材	· C-3 · C-4		絶縁断熱工法の防水湿シート ・設置する			
		窯業系パネル:無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生し たもの。	- M3D - D-1 - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 適用する 脱気装置		・設置しない	⑧ シーリング	シーリング改修工法の種類 [3.7.2, 3, 3.7.7]	
		金属複合板:金属板と樹脂を積層一体化したもの。	・P00 ※D-2 ※製造所 の仕様 ・設ける・設けない				・ シーリング充填工法・ シーリング再充填工法	
		(品質・性能)	改修用ドレン・設ける	6 合成高分子系ルー	[3.5.2~4] [表3.5.1~3]		・ 拡幅シーリング再充填工法・ ブリッジエ法	
		・ 窯業系パネル ・ 窯業系パネル ・ 金属複合板 分類・規格 I類	・PODI ・DI-1 JIS A 9521 (建築用断熱 ・ ・ ・適用する) 脱気装置	フィングシート防力	水防水層の種別		ボンドブレーカー張り ・ 適用する ・ 適用しない エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない	
		(寒冷地仕様) (一般地仕様)	・M3DI ※DI-2 材)に基づく発泡プラス ※製造所 ・設ける		工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 射率防水		シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕株書表3.7.1による	
		寸法 (mm) 厚さ (mm) 幅 (mm)	(種類) 改修用ドレン		種類 使用量 備考 POS ・S-F1 ・ ・ ・適用する 脱気装置		施工箇所 シーリング材の種類(記号)	
		寸法の許容差 厚さ:+10%、-5%、幅:±1% 出荷時の含水率 出荷時において10%以下			・S4S ※製造所 ・設ける ・設けない			
		曲げ強さ・曲げモーメ 標準時 550以上 450以上 300以上 ント (N・c m) 凍結融解完 400以上 (300) 320以上 (200)) 250以上 (300)	。 (厚さ)(mm)		・S-F2 ・適用する ・設ける		仕上げを行わない施工箇所 ・ 図示による ・ 打継目地	
		(スパン40cmにおけ 了時			· S-M1 · 適用する · 設けない		シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)による 接着性試験 ※ 簡易接着性試験 引張接着性試験	
		る単位幅1cmあたり (試験サイの曲げモーメント) クル数)	改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ		※製造所 の仕様		13/13 Lauren // HI (9) 13/13 Lauren // J (1) 13/13 Lauren // Laure	
		吸水率 (96) 20以下 1以下 吸水による長さ変化率 (96) 0.07以下 0.07以下 0.01以下	※ 改修標準仕様書表3.3.7から表3.3.9による - JIS A 6013に基づく種類及び厚さ		・S-M2 ・適用する			
		難燃性 不燃 表面材は不燃 耐凍結融解性能 300サイクル 200サイクル 300サイクル後、著しい	用途による区分 ・ 材料構成による区分 ※ R種		- S3S · S-F1 · · · · · · · · · · · 適用する 脱気装置	9 とい	といの材種 ・ 配管用鋼管 [3.8.2、3] ・ 硬質ポリ塩化ビニル管	
		後、著しい割れ、後、著しい割れ、割れ、剥離がなく、外観 剥離がなく、外 剥離がなく、外 上の異常がないこと	厚さ (mm以上) ・		※製造所 ・設ける		・ルーフドレン	
		親上の異常が 初上の異常が (明らかに吸水しないとないとと。	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書表3.3.8から表3.3.9による		の仕様 ・設けない		・表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類・)	
		耐衝撃性能 質量500 (窯業系パネル I 類は 質量500のなす形おも	- JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分		・S-F2 ・適用する ・M4S ・S-M1 ・ M5 ・ 適用する 脱気装置		ルーフドレン 種別 施工箇所	
		1,000) のなす形おもりを高さ りを高さ1.0mから試験 1.0mから試験体の弱点部に落と 体の弱点部に落とした	材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)		※製造所		・ ろく屋根用 (・ 縦型 ・ 横型)・ パルコニー用	
		したとき、裏面に達する穴があか とき、裏面に達する穴 があかないこと。 残留	脱気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定		・S-M2 ・適用する		・バルコニー中継用	
		変形量1/100以下。	脱気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定・ (個)					
			屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張り		・POSI ・S3SI ・S3SI ・33SI ・33SI (3) (1) (b) による ・適用する 脱気装置・設ける			
		剛性 (E×1)	じまい位置 ※ 図示 ・ 屋内防水		・S4SI (種類) ・M4SI ※硬質ウレタンフォーム断		·	
		時に荷重720Nの時、たわみ4mm	工法 種別 施工場所 保護層		熱材 2種 2号・設ける			
		以下となる剛性)	・ P1E ・ E-1 ・ 設ける ・ P2E ※ E-2 ・ 設けない		- 設けない (厚さ) (mm)			
			E-1の場合で工程3を行う部位 (※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位) 保護層 ・ 設ける (※ 図示 ・) ・ 設けない		· SI-F2 ※25 · 50 ・適用する · SI-MI 改修標準仕様書3.5.2 ・ ・ ・ ・ 適用する			
			立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法		(3) (I) (a) による ※製造所			
			※ アルミニウム製 L−30×15×2.0mm程度 屋上排水溝 図示		(種類) の仕様 ※硬質ウレタンフォーム断			
					熱材2種2号			
					(厚さ) (mm) ・SI-M2 ※25 ・50 ・適用する			
					**SI-MZ **Z5 * 50 ** 適用 9 句 **			
					 ※ 非歩行用 ・ 軽歩行用 S I ー F 1 、 S I ー F 2 、 S I ー M 1 及び S I ー M 2 における防湿用フィルムの設置 			
					※ 設置しない ・ 設置する			
					SI-M2の絶縁用シートの材種 ※ 発泡ポリエチレンシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
					S-M2及びSI-M2の立上り部の工法 ※ 接着工法(立ち上がり面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・) ・ 機械的固定工法			
					A STATE OF THE PARTY OF THE PAR			

豊平ウイング屋根改修工事 設計年月:2025年 10月 品島県知事登録第22(1)5254号 設計者 管理建築士 小泉 満 一級建築士 第321667号 A K 建築設計事務所 監計者 管理建築士 小泉 満 一級建築士 第321667号

シーリング改修	事項)	(外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2°C、温度80%以上の状態で湿空棄生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A 6990「健築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準して行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に違するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッテメントを接着し、引張試験機を用いて接着端をエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mの型以上を確保していること)また、試験後の部材域附位置の表示を下記の中から遊び明記する。 T : タイルの型料を断 TM: 氏調会をエルタルの母材破断 MG: 既調合モルタルの母材破断 MG: 既調合モルタルの母材破断 MG: 既調合モルタルの母材破断 MG: 既調合モルタルの母材破断 MG: 既調合モルタルの母材で断 MG: 既調合モルタルの母材で断 MG: 既調合モルタルの母材で断 MG: 既調合モルタルの場合でした。 を15 IS A 5209「セラミックタイル」に規定する等イルで押出してはプレス成形による施ゆうの「小ロタイル 100mm×60mm×12mm」を4枚2列、計砂核を圧着する。その後、28日間、温度20±2°C、温度00%以上の状態で湿空糞生を行い、これを試験体とする。(試験方法)「モザイクタイル」の場合と同様に行う。(試験方法)「モザイクタイル」の場合と同様に行う。(試験方法)「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二丁掛タイル」とも、各々(4)接着強さ(福冷輸返し後)の試験方法の「試験体力と同様とする。(温冷構返し試験、「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二丁掛タイル」とも、各々3IS A6000「建築用仕上塗材」に規定する7・11温冷構返し試験に準じて行う。試験な手順は、試験体を20±2°Cの水中に18時間湯ときした。直ちに一20±2°Cの恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3°Cの別の恒温器中で3時間が温し、この24時間を1サイクルとする操体を10回繰返した後、試験変に2時間特置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。(温冷棒返し後の搭着強さ試験方法)「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し接続下法をの試験対法)「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷燥返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間特置を1サイクルとする操体を10回繰返した後、15によるで調が表述と15kを10分を15分。(15人を80分 「14分 14分 14分 14分 15分 15分 15分 15分 15分 15分 15分 15分 15分 15	4 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁	外壁複合改修構工法 タイルの形状、 寸法等	アンカービンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたも。 注入口付アンカービンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径6mm ・ モルタルを搬去して改修 モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 充填工法 ・ エポモン構造モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタルを替え工法 既製目地材 ・ 使用する (形状	5 外壁改修工事(仕上塗材仕上げ外壁)	既存塗膜等の除去、 下地処理及び下地 調整 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	T.法 知理範囲 下地面の補修
1		※ 樹脂注入式法	4	欠損部改修工法 浮き部改修工法 目地改修工法 外壁複合改修構工法	※出版注入工法 工人の理類	5 5 5	マスチック塗材塗り	経歴書材仕上塗材



設計 者 管理建築士 小泉 満 一級建築士 第321667号

5 建	・ ふすま 張りの種別 (・ I型 ・ I型) 上張り (押入等の裏側以外) ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度	6 1	他の部位との取り合い等	既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲 [6.1.3] 6 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲	6 造作	作用単板積層材	[6. 5. 2] ホルムアルデヒド放散量 ※ F ☆☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(分)(b)による・ ・ JAS 0701に基づく適作用単板積層材	14 軽量鉄骨	 野緑等の種類 屋外(※25形・・) 屋内(※19形・25形) ・屋外の軒天井、ピロティ天井等
具\ 改修 工事	緑仕上げ ・ 塗り縁 ・ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装) 見込み寸法 ※ 建具表による ・ ・ 戸ぶすま 見込み寸法 ※ 建具表による ・ ・ 統裁り障子 見込み寸法 ※ 建具表による ・ ・ 株の材料 ※ 木製料 (ら葉句検弦修工 申による)	** ** ** ** ** ** ** ** ** **		※ 壁面より両側000mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 改成 既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修			施工箇所 品名 寸法 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大		工法 1章 適用区分による風圧力の (· 1 · 1.15 · 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 野縁受、つりポルト及びインサートの間隔 図示 周辺部の端からの間隔 図示
	MANUA (V.TA) 4 + ME (2 - 1 - 1 ME) 1 - 1 ME)		既存床の撤去及び 下地補修	ビニル床シート等の撤去 ※ 仕上材のみ (接着剤とも) [6.2.2] ・ 下地モルタルとも (・ 図示の範囲 ・ 撤去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法	$ \ $		・ JAS 0701以外の造作用単板積層材	\	野線の間隔 ・ 図示 ・ 使用する ・ 使用しない 既存の埋込みインサート ・ 使用する ・ 使用しない あと施エアンカーの施工後の確認試験
19 ガラス	・ 調製件 (米里館の) ご調做 ・			日が時間至外やいけれた法。 で成場が休五上 - 日ボじ上法 既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ 樹脂モルタルは、4 章外壁改修工事による。			施工箇所 品名 寸法 表面の化粧加工 防虫処理 含水率 間伐材等 の適用		でう (試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において3箇所 ・) (確認強度 ※改修標準仕検書6.6.4(1) 例による ・)
	※建具表による ・ 合わせガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性によ			338 2777760 12772 77576	$ \ \ \rangle$	\	・有り (加工:・天然木化粧加工 ・塗装加工)・適用しない・ 適用しない・		・行わない
	る種類 ※ 下記以外は建具表による ・	3	既存壁の撤去及び 下地補修	間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2] ※ 改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り			・無し()		つりボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※ 図示
	- フロート板、フロート板合わせガラス - I 頭 - II - 1 類 - II - 2 類 - II 類 - II - 2 類 - II 類 - II 列			(仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ・)			- JAS 3079に基づく直交集積板 施工箇所 品名 強度等級 種別 接着性能 樹種名 寸法 間伐材等 (使用環境) (mm) の適用	\	・天井のふところが3.0mを超える場合 補強方法 ※ 図示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類						(医用葉型) (開西) の適用		・ 天井の下地材における耐震性を考慮した補強
	※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類による名称 材料板ガラス 破片の状態及びにショット								補強箇所 ※ 高さが6mを超える天井 ・ 図示 補強方法 ※ 「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」 (平成25年
	パック衝撃特性による種類 ・フロート強化ガラス ・フロート板ガラス ・ I 類 ・ Ⅲ類				7 合板	反等	[6. 5. 2]		国土交通省告示第771号)第3第2項第二号に適合させる。 ・ 図示 ・ 図示
			\			/			建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
	★		製材				ホルムアルデヒド放散量 ※F ★☆☆ 文は標準仕様書6.5.2(1)(ウ)(b)による -		
	対料板ガラスによる種類 性能による種類 色 調 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 1種 ・ 2 種 ・ グリーン ・	"	anc 171	JAS 1083-5 製材 - 第5部に基づく下地用製材			WI	15 軽量鉄骨	※ 改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示
	・一、熱線吸収網入り磨き板ガラス			(mm) 処理 の適用 **2級 **A種・B種 ・			・ 2類 ※2等以上 ・1等 ・適用しない 針葉樹		スタッドの高さか5.0mを超える場合 ※ 図示 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※ 改修標準仕様書6.7.4.(5)による
	複層パラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※ 下記以外は建具表による			・ ・ ・ ・ ※2級 ※A種・B種				16 ピニル床	末シート [6.8.2、3] 種類の記号 色柄 特殊機能 厚さ (mm) 備考
	断熱性による区分 乾燥気体の種類 ・ T 1 ・ T 2 ・ T 3 ・ T 4 ・ T 5 ・ T 6 ・ 空気 ・ アルゴン・			115 100 0 all ++ 25 0 all - 15 c 3 c 4 (2.45 III all ++			- 構造用合板 施工箇所 等級 単板の 接着の 板面の 厚さ 防虫処理 強度等級 間伐材等 樹種名 程度 品質 (mm) の適用		※ FS ・無地 ・帯電防止 ※ 2.0 ・マーブル柄 ・耐動荷重性 ・ 2.5
	日射取得性、日射遮蔽性による区分 乾燥気体の種類 - G ・ \S ・ 空気 ・ アルゴン ・			- JAS 1089-2 製材 - 第 2 部に基づく造作用製材 施工箇所 寸法 等級 含水率 以理 の適用					・ 柄物 ・ 防滑性
	熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類			見え掛り面 ※A種・B種			・適用しない		特殊機能 帯電防止・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上~3.2未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ¹ ~1×10 ¹¹ Q程度
	※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類 日射熱遮蔽性による区分 耐久性による区分			見え掛り面 ※小節以上 ※A種 · B種 以外			・「合板の日本製林規格」による化粧ばり構造用合板 施工箇所 厚さ 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 間伐材等		- No Man (100 M 1404) 1 / 10 1 / 10 名信及
	- 1種 A類 - 2種 - A類 - B類 - 3種 B類 - 3種 B類						(mm) の適用 ・適用する ・ ・適用する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	17 ビニル床	末タイル [6.8.2] 種類の記号 色柄 寸法 特殊機能 厚さ (mm) 備考
	S S S S S S S S S S			 JAS 1083-6 製材 - 第6部に基づく広業樹製材 			・ 道用しない		※ K T ・無地 ・300×300 ・帯電防止 ※ 2.0 ・ T T ・ F T ・ 柄物 ・ 450×450 ・ 防滑性 ・ 2.5
	ガラスの留め材及び溝の大きさ			施工箇所 付法 等級 含水率 保存 間伐材等			施工箇所 化粧板に使用する 厚さ 接着の程度 防虫処理 間伐材等 単板の材種名 (mm) の適用		- FOA - FOB - 500×500 - 3.0 特殊機能
	建具の種類			※1等 ※006以下 - A種			※1類 ・2類 ・適用する ・適用しない		** ** ** ** ** ** ** *
	・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形			· B種 ·			- 「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 施工箇所 厚さ 接着の程度 表面性能 化粧加工の方法 防虫処理 間伐材等	18 接着剤	
	鋼製及び鋼製軽量 ※ シーリング材 ※ 建具の製造所の仕様による								

設計年月:2025年 10月

A — 05 A3版: 70.7% A2版: 100%

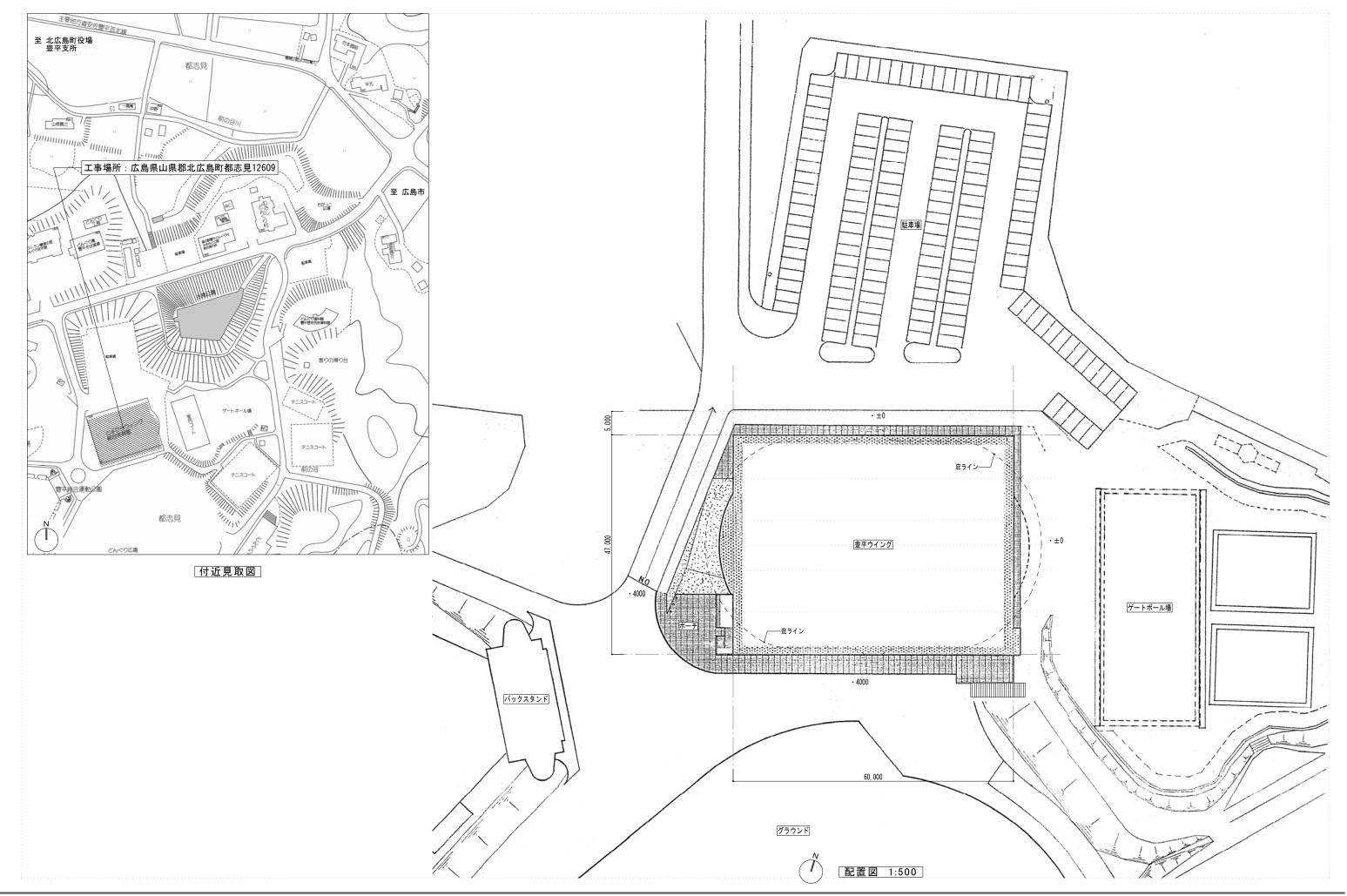
			··				
6 22 合成樹脂塗床	[6.10.2、3] 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類	\6	\(\epsilon \)		(4)接着強さ(標準時)の試験方法	3 錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種別 [7.4.2、3] 塗装面 塗料の種別 工程の種別
	程別 施工圏所 工法 位上げの種類 ・厚膜型塗床材 ※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ	A	- 化粧パーティクルボード - 単板オーパーレイ DV - プラスチックオーバーレイ DO	ı	イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 塗	.	塗装面 塗料の種別 工程の種別 鉄銅面 SOP 新規見え掛り ・A種・
装	弾性ウレタン樹脂系塗床 ・ つや消し仕上げ	装	· 塗装 DC		N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに 装	\	新規見え隠れ ・B種・
修 \	 ・ 厚膜型塗床材	修 \	10 (難燃) · 12 (難燃) · 12 (難燃) · ハードボード (素地) HB ・無研磨板 (・スタンダード · テンパード RN) 日本 12 (12 13 14 14 14 14 14 14 14		(1) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミック タイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル	V	塗替え
事 \	・樹脂モルタル工法	事 \	・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード RS) 車	[\	(外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2°C、湿度 事		新規見え隠れ ・ B種 ・
	・薄膜型塗床材 ※ 平滑仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 下☆☆☆☆		- ハードボード (化粧) - 内装用DI ・外装用DE - 2.5 · 3.5 · 5 · 7 ·		80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体を		<u> </u>
	至村の小ルム)ル)して瓜秋里 次下ははは	\	・ インシュレーションボード IB A級 (・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ・)		ダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、		亜鉛めっき銅面 SOP 新規鋼製建具等 ※A種 ・B種 ・A種・
23 防じん用塗床	材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする		9 · 12 · 15 · 18 ·		シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を		新規その他 - B種 ・ - C種 ・
	工法 製造所の指定する工法とする なお、上塗りは2回塗りとし、総塗布量は0.25k/m2以上とする		天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 ※ 図示による ・		行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。 (全てが0.6N/mm2以上を確保していること)		学育な ・ C 性 ・ E P ー G 新規鋼製建具等 ・ A 種 ・
	仕上げの種類 (※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ) (※ 標準色 ・)		合板の張付け · A種 · B種		また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T : タイルの母材破断 M : 既調合モルタルと下地板の界面破断		新規その他・B種・
	JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆ ・		せっこうボードの目地工法 ・ 仕上表による ・		T M: 既調合モルタルとタイルの界面破断 : 下地板の母材破断 M : 既調合モルタルの母材破断	\	
24 フローリング張り	[6.11.2~6]				ロ)適用タイルが「小ロタイル・二丁掛けタイル」の場合	4 仕上げ塗料塗り	[7.5.2~7.13.2]
	単層フローリング 種類 工法 樹種 厚さ 間伐材等				(試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板		塗装の種類 塗装面 工程
	は (mm) の適用	27 壁紙張り	ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆ · [6.14.2、3]		N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ち に (1) で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミ		・合成樹脂調合ペイント塗り 木部屋外 ※B種・ ※A種・
	・フローリング ・ 釘留め工法 (根太張り) ※ なら ・ 15 ボード 1 等 ・ 釘留め工法 (直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 12 ・ ・ 13		施工箇所 壁紙の種類 防火性能 備考		ックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル		(SOP) 木部屋内 ※B種・ ※B種・ 塗料の種類 ※1種・2種 鉄鋼面 ※B種・・ A種 ※B種
	ボード 1 等 ・ 釘留め工法(直張り) ※ なら ・ ・ 12 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		紙 繊維 プラス 無機質 その他 チック		108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、		亜鉛めっき銅面 ※B種 · ※B種 ·
	・ フローリング ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。		(銅製建具以外)
	ブロック 1等	\	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		(5)接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法		亜鉛めっき銅面 ※A種 ・ ※B種 ・ (銅製建具)
			コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・		(試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4)		・クリアラッカー塗り (CL) 木部 ・A種 ※B種 ・A種 ※B種
	複合フローリング 種類 工法 樹種 種別 厚さ (mm) 間伐材等		せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別 ※ B種・		接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。 (温冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS		・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)
	の適用	28 モルタル塗り	[6.15.3, 5, 6]		▲6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。		・耐候性塗料塗り (DP) コンクリート面及 ・A-1種 ・A-1種
	- 大天然木化粧複合 ・ 釘留め工法(根太張り) ※ なら ・ A種 ・ 15 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		モVレタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料)		試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイク		上塗り等級 び押出成形セメン ・B-1種 ・1級 ト板面 ・C-1種
	マローリング ・ 釘留め工法(直張り) ・ B種 ・ 12 ・		既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 () 形状 (※ 図示 ・) ・ 設けない		中で3時間示却し、次いで30±3での別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を「サイク」 ルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視		· 1級 · 2級
	· 接着工法 ※ なら ・ A種 ・ 12 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		床の自地 設ける(目地割り ※ 2 m2程度(最大目地間隔3 m程度)		によって調べる。		・3級
	· B種 · 12 ·		(種類 ※ 押し目地 ・) ・ 設けない		(温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準		・つや有合成樹脂エマルション コンクリート面 ※B種・・・A種・B種・ハイント塗り(EP-G) モルタル面 ※B種・・・A種・B種・
	フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準仕様書6.11.2(2)による		外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験		時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm2以上を確保していること)		せっこうプラスター面 ※B種 ・ ・A種 ・B種
	各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート		・ 適用する ・ 適用しない 壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理		(6) 長さ変化率の試験方法 JIS 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ		せっこうボード面 ※B種 · ・ ・A種 ・B種
	現場塗装仕上げ ・ 行う		・図示による		変化率に準ずる。		屋內鉄鋼面 ※B種 · · A種 · B種
	※ ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り		建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤		(7) 曲げ強性の試験方法 JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。		屋内亜鉛めっき面 ※A種・B種 ・合成樹脂エマルションペイント塗り ※B種・・・・A種・B種
	・ 生地のままワックス塗り		(品質・性能) \ (試験方法) JIS\A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による		試験室の状態:試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。		(EP)
	√ 行わない		項目 品質・性能		既調合目地材 (品質・性能)		・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) ・A種 ※B種 ・A種 ※B種 ・ステイン塗り ・ピゲタントステイン塗
25 畳敷き	[6.12.2]		防水剤の種別 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤 混合割合 セメント重量の5%以下		項目 品質・性能 項目 品質・性能		・
	種別 ・A種 ・B種 へC種 ※D種 (畳床:・KT-I ・KT-I ※KT-II ・KT-K ・KT-N)		凝結及び安定性 (凝結時間) 始発:1時間以上 終結:10時間以内		保水率 30.0%以上 吸水量 50以下 長さ変化率 0.2%以下(収縮) 単位容積質量 1.80 k/L以上		・木材保護塗料塗り (WP) ・A種 ※B種 ・A種 ※B種
	下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.1による床組 ・ ポリス・レンフォーム床下地(ノンフロン)		(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。 曲げ及び圧縮強度比 防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上		(試験方法)		つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面) の塗替えの場合のしみ止め
			吸水比 防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下		(1) 試験の条件		※ B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
	畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて 少ない材料を使用したものとする。		透水比 防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下		試験室は、温度20-1/2°C、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、 器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。		合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
	衝撃緩和型畳 (畳表: ・C1 \ ・C2)		ただし、透水試験における水圧は、3.0×10° Paとし1時間行う		(2) 試料の調整		※ B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
26 せっこうボードその 他ボード及び合板	MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 [6.13.2、3] ※F☆☆☆☆	29 タイル張り	[6.16.2~4] 伸縮調整目地の位置 床タイル (※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示 ・)		正味質量と標準練り上がり量より、1.0~1.2との試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水		高日射反射率塗料塗り
張り	合板のホルムアルデヒド放散量		床タイル以外 (※ 図示・)		を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定		下地調整(改修標準仕様書表7.2.2) RA種 ※ RB種 RC種
	※標準仕様書19.7.2(2)(4)の(a) ~ (d)のいずれか 種類 JISの 厚さ (mm)、規格等		セメントモルタルによるタイ)と (セラミックタイル) 張り 施工 形状/寸法 再生材料 吸水率による区分 うわぐすり 役物 色 耐凍害性 耐滑		する練り混ぜ機を使用し、 ないこのでは 大し3分間練り混ぜて試料とする。		工程 塗料その他 塗付け量 規格番号 規格名称 種類 等級 (k/m2)
	100号		箇所 (mm) の適用 I類 I類 II類 施ゆう無ゆう 有 無 標準 特注 有 無 り性		(3)保水性(ろ紙法)		塗料塗り JIS K 5675 屋根用高日射 2種 · 1級 · 2級 · 3級 塗料製造所の
	・硬質木毛セメント板 HM ・15 ・20 ・25 ・ ・中質木毛セメント板 MW ・15 ・20 ・25 ・				JIS R 3202「フロート板ガラスとび磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦200mm、 横200mm、厚さ5mm)の上に、 P 3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5 Aろ紙(直		反射率塗料 仕様による クリアラッカー塗り A種の工程2の着色
	・普通木毛セメント板 NW ・15 ・20 ・25 ・				(18.5cm) をのせ、その中央部(に真鍮製リング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)		・適用しない・適用する(着色剤:・溶剤形着色剤・油性染料着色剤)
	・硬質木片セメント板 HF ・12 ・15 ・18 ・21 ・		TAY 114 110 4 1500 10 (1 - 7 - 6 4) (1 5 5 5 6 6 7 10 10 11 5 1 5 6 6 7 10 11 5 1 5 6 6 7 10 11 5 1 5 7 10 11 5 1 5 7 10 11 5 1 5 7 10 11 5 1 5 7 10 11 5 1 5 7 10 1		を設置し、2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく		ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色
	・普通木片セメント板 NF \ 30 ・けい酸カルシウム板 0.8FK タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8		耐滑り性: JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法一第12部: 耐滑り性試験方法) で規定する C.S. R値は0.4~1.0とする。		上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長		・適用しない ・適用する(着色剤:・油性顔料着色剤 ・溶剤形顔料着色剤)
	1. 0FK \		標準的な曲がりの役物は一体成形とする		さをノギスを用いて 1 mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式によ		オイルステイン塗りの工程等
	 ロックウール化粧吸音板 DR マラットタイプ(・9(不燃)・12(不燃)・) 凹凸タイプ(・12(不燃)・15(不燃)・) 		試験張り ・ 行う ※ 行わない 見本焼き ・ 行う ・ 行わない		り保水率を求める。 保水率 (%) =50/平均値×100 注 50: リング型わくの内径 (mm)		
	・ ロックウール吸音ボード1号 RW-B ・ 25\ ・				(4)単位容積質量		特記仕様書(構造関係)による
	・ グラスウール吸音ボード32K GW-B ・ 25(ガラスクロス包) ・ せっこうボード GB-R ※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)		既調合モルタル モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤		(2) で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に 耐震		
	・ 不燃積層せっこうポード		等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。		規定する方法で求める。		
	・ シージングせっこうボード GB-S 12.5 (※不燃・準不燃)		(品質・性能)		(2) で調整した試料を用いてJIS A 1171の7. 8長さ変化率試験に従って行う。		
	・ 強化せっこうボード GB-F ・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)		項目 品質・性能 項目 品質・性能		(6) 吸水量 (2) で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定		
	・せっこうラスボード GB-L 9.5		保水率 70.0%以上 長さ変化率 0.20%以下 単位容積質量 1.80k/L以上 曲げ強と 4.0N/mm2以上		する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は8個とし、その平均値とする。		
	- 化粧せっこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (・ 柾目 ・ 板目) 専用下地材有り		単位容積質量 1.80k/L以上 曲げ強と 4.0N/mm2以上 接着強さ 標準時 0.60N/mm2以上		有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り タイルの形状、寸法等	1 石綿含有建材の 除去工事	調査 [9.1.1、3~5] ・ 石綿含有建材の事前調査
	・ 化粧せっこうボード GB-D 9.5 (準不燃)		温冷繰り返し後 0.40N/mm2以上 (分類を大法)		施工 形状/寸法 再生材料 吸水率による区分 うわぐすり 役物 色 耐凍害性 撮会 環	1	工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
	(トラバーチン模様) ・普通合板 表板の樹種名		(試験方法) (1) 試料の調製		箇所 (mm) の適用 I類 I類 II類 II類 II類 II類 II類 II類 II類 II類	\	貸与資料 (
	生地、透明塗料塗り		製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに悪する材料と練り掲げれた計算して用きする。				・ 分析による石締含有建材の調査
	(※ ラワン程度 \		のに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、		· · · · · · · · ·		分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、
	(※ しな程度 ・ \		練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料		標準的な曲がりの役物は一体成形とする事		トレモライト
	板面の品質 () P (mm) ()		とする。 (2) 保水率の試験方法		有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ·		分析方法
	接着の程度 (・1類・2類)		JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦150mm、				材料名 分析方法(定性) 分析方法(定量) JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2 JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
	防虫処理 (・行う・行わない) ・ 天然木化粧合板 樹種名 (横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)\ に規定する5 Aろ紙(直 径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく(内径30mm、高さ10mm、厚さ	30 セルフレベリング			・ 箇所・ 箇所
	接着の程度 (・1類・2類人)		3 mm)を設置し、(1)で調製した試料を平滑に詰込む。	塗り 	塗厚(mm) ※10mm程度 ・		· 箇所 · 箇所 · 箇所 · 箇所 · 箇所 · 箇所 · 一
	厚さ (mm) () 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)		その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部に なるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた 7	1 材料	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量		材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
	・特殊加工化粧合板		方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1 mmの単位まで測定する。	.	※ F άάάά ·		サンプル数 1 箇所あたり3 サンプル 採取箇所 ・ 図示
	表面性能 () タイプ 接着の程度 (・1類 ・ 2類)		試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50/平均値×100 (注) 50:リング型わくの内径 mm		防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする ・ 次の箇所を除き防火材料とする (・)		
	厚さ (mm) ()		(3)単位容積質量の試験方法 ぱり				アスベスト粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点
	防虫処理 (・行う・行わない) ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903 による厚さ (※ 1.2 ・		JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。	2 下地調整. 素地ごしらえ	塗替え種別がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 (7.2.1~7] ※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す		適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定点(各施工箇所ごと)
	・ポリエステル樹脂化粧板			' · = = 3 3	下地調整、素地ごしらえ		・ 測定 1 処理作業前 処理作業室内 ・ 計 点 ・ 測定 2 調査対象室外部の付近 ・ 計 点
	・ ミディアムデンシティ MDF ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・				下地面の種別 塗替え 新規 ひび割れ部の補修 下地調整の種別 素地ごしらえの種別 -		· 測定 3 処理作業中 処理作業室内 · 計 点
	ファイバーボード ・ 無研磨板 VN ・ 研磨板VS				木部 ※RB種 · · · A種 · B種 ─		※ 測定 4※ 測定 5セキュリティゾーン入口 ・ 計 点集じん・排気装置の排出口 出口吹出し風速 1 m/s 以下
	パーティクルボード ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・				鉄銅面 ※RB種・ C種 ー 鉄銅面(DP) ※RB種・ B種 ー		(処理作業室外の場合) の位置 ・計 点
	\				亜鉛めっき面 ※RB種・・・A種・B種 -		※ 測定 6 処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界
					モルタル面、せっこうプラスター面 ※RB種 ・ ・A種 ・B種 ・行う コンクリート面 (DP以外) ※RB種 ・ ・B種 ・行う		※ 測定 7 処理作業後 処理作業室内 · 計 点
					コンクリート面 (DP以外) ※RB種 ・ ・B種 ・ 行う A L Cパネル		(シート養生中)
					押出成形セメント板面(DP) ・RB種 ・RC種 ・A種 ・B種 ・行う コンクリート面		・ 測定8 処理作業後 処理作業室内 ・ 計 点 ・ 測定9 (シート撤去後 調査対象室外部の付近 ・ 計 点
					セっこうボード面、その他ボード面 ※RB種 ・ ・A種 ・B種 ー		1週間以降)
				1 1			

K 1 1				
\9	測定方法 ・ 自動測定器による測定	フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒト放散量 \		(20. 2. 11)
環境	測定名称測定方法・測定4 ・ 測定5粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、	※ F ☆ ☆ ☆ ☆ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	社 誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品	川等の種別、取付け形式等
盧	・ 測定 () 繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉 じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	種類 厚さ (mm) 施工箇所 パネル寸法 (mm) 高さ (mm) 高さ (mm)	※図示・	
修 \	・ JIS K 3850-1に基づいた測定	※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 ※ 2種 b A ※ 25 ・ ※ 外壁 表面仕上材 ※ タイルカーペット ※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル ・ 帯電防止床タイル	プラインド	(20.2.14) ボックス・ 幅・高さ・
事	測定名称 メンブレンフィ 試料の吸引流量 試料の吸引時間 ルタ直径 (mm) (1/m i n) (mi n)	※ 3種 b A ※ 25 ・ ※ スラブ	(mm)	レールの材種 取付箇所 ※鋼製 ※図示
	・測定4 ・測定5 ・測定() 25 5 30 ・測定() 47 10 120	・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・25 ・ ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・25 ・ ・	・コード式 合金製 □・・操作棒式	
	・ 測定 () 47 10 240 ・ 測定 ()	施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による スローブ及びポーダー ※ 製造所の仕様による ・ 図示 配線用取り出しパネル	電動 -	アルミニウム ※図示
	石綿含有建材の処理	- 断熱材現場発泡工法		合金製・
	・ 石綿含有吹付け材の除去	吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 ・	- 1 本城日 コード式 - 一家動 -	
	除去対象範囲 ※ 図示 ・ 除去工法 ※ 改修標準仕株書9.1.3(2)(7)による	空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・ なし ・ あり (形式、施工箇所: ※ 図示 ・) ・ 図示 ・	アルミスラットの材質 焼付け塗装仕上げ	Pito =
	除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化	(性能)	クロススラットの材質 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂	,,,,,,,
	除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)	現場発泡断熱材 (1) 耐荷重性能 変形5.0mm以下 残留変形3.0mm以下 (2) 耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと	4 ロールスクリーン	(20. 2. 15)
	・ 石綿含有保温材等の除去	項目 品質・性能 難燃性 下記のいずれかによっていること 所定荷重1,000 N (5,000 N の積載荷重は1,000 N 以上で任意) による繰り返し試験後、	材種 操作方式 遮光性能 寸法 (mm) 即 ・ガラス繊維製 ・電動式 ・1級 ※ 図示 ※	
	除去対象範囲 ※ 図示 ・ 破砕して除去 ※ 原形のまま、手ばらし ・ 破砕して除去	(1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加 熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 残留変形3.0mm以下 (4) 耐震性能	・ 合成・天然繊維製 ・ スプリング式 ・ 2級 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
	除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有保温材等の処分	(2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリー試験)に適合していること。 (イ) 固定台試験による耐震性能	巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材	大料
	- 埋立処分(管理型最終処分場) - 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)	Vを熱性 準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の 項目 性能 (1) ~ (3) に適合していること。 (1) ~ (3) に適合していること。 水平荷里の1/2が下記の<適用地震時水平カ>	、 製造所の仕様 ・	
	石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外)の除去 除去対象範囲 ※図示	(1)総発熱量が8MJ/m2以下であること。 (2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。	5 カーテン 形式 開閉操作 ひだの種類 生地の種別	(20.2.16) 取付箇所 備考
	除去した石綿含有成形板の処分 ・ 石綿含有石こうボード	(3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/m2を超えないこと。 (試験方法) (3)適用地震時水平力を加力した 構造床面からの高さの1/50以下	おります。 おります おります おります かっまみひだ	
	※ 埋立処分 (管理型最終処分場) ・ 石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板	(大) 原液試験 (原液粘度試験) 時の支柱頂部の変位 時の支柱頂部の変位 リJIS K 7117-1 「プラスチックー液状、乳濁状又は分散状の樹脂ーブルックフィールド	・ダブル ・引分け ・ひも引き ・箱ひだ、片ひだ ・電動 ・ブレーンひだ	•
	- 埋立処分 (安定型最終処分場) - 埋立処分 (安定型最終処分場) - 中間処理 (溶験施設又は無害化処理施設)	形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。 (2) 発泡品試験 3,000N 0,6タイプ 支柱一本が負担する床加重		(暗幕)
	- 石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種)の除去	↑) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1 (m2当り自重+3,000N) /m2当りの支柱本数 ×0.6 (m2当り自重+3,000N) /m2当りの支柱本数 ×0.6 (3,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重	暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※ 300mm以上・	
	除去対象範囲 ※図示 養生方法	2) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526 の6.2.3による。	間帯カーノンや同場、工能及び自己との重なり、※ 300mm以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(20. 2. 16)
	・ トート 特合有けい酸カルシウム板第1種の処分	3.3 計数機解形は、JIS A 9526の6. 2. 4による。	材料による区分 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型 ステンレス製	
	- 埋文処分(安定型最終処分場) - 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)	5) 熱品/厚率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。 【 (m2当り自重+5,000N) /m2当りの支柱本数 ×1.0	強さによる区分 ※ 10-90 ・	
		7) 透温率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。 振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移	仕上げ ※▽/フルマイト ・ 形状 ※ 角形 ・	
	・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去	(3) 難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。 動がない。 1) 難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準しる。 (5) 耐燃焼性能	7 ブラインドボックス	
	下記以外は、改修権準仕様書9.1.1及び9.1.2による 除去工法	2) 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の 評価方法に使用している試験方法に準じる。	及びカーテン 溝幅×深さ (mm) 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 材質 ・ 集成材 (仕上げ))	・150×80 ・図示
	※ 石綿障害予防規則(平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号)第6条 による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法	- 断熱材後張り工法 (7) 感電防止性能 6		・ 特注色 ())
	・集じん装置併用手工具ケレン工法 ・集じん装置付き高圧水洗工法(15MPa以下、30~50MPa程度)	断熱材の種類()	- 銅製 (仕上げ:)	
	 集じん装置付き超高圧水洗工法 (100MPa以上) 超音波ペレン工法 (HEPAフィルター付き掃除機併用) 	 ・ 断熱材にせっこうボー (等を張り付けたパネル (材質 厚さ mm) ・ 張り付け工法 「 須米の歩行において空洞論 やがたつきがなく、歩行感に違和感がない (9) メンテナンス性 	8 天井点検口	内枠
	・ 剥離剤併用手工具ケレン工法・ 剥離剤併用高圧水洗工法(30~50MPa程度)	断熱材の張り付け工法 ・	※ アルミニウム製 ※ 450×450 ※ 一般形 ・ 屋内外用 ※ 額 ・ 600×600 ※ 一般形 ・ 屋内外用 ・ 目	「緑タイプ ※ 額縁タイプ 地タイプ ・ 目地タイプ
	・ 剥離剤併用起高圧水洗工法 (100M P a 以上)・ 剥離剤併用起音波ケレン工法	4 屋上緑化改修工事 植栽基盤及び材料 [9.4.2~4] (1) 耐震性能 1) 設計床高さ≦300mmの場合	(品質・性能) 気密形	
	・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 除去対象範囲 ※ 図示	屋上緑化軽量システム ・ 適用する	内外枠の材質 アルミニウム製 JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの	
	作業場の隔離 ※ 行わない \ 行う 試験施工 ※ 行わない · \ 行う	見切り材、舗装材、排水穴、マルチング材等 ※ 図示 ・	表面処理 陽極酸化皮膜JIS H 8601 (AA6) 又は同等の性能を有するもの (外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性	
	除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 埋立処分(管理型最終処分場)	(品質・性能等)	内枠及び外枠のコーナーピース	İ
	・ 中間処理(溶融施設又は無害化)処理施設 除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分	透水、排水層等構 合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。	外枠の取付け金物	5±0
	※ 改修標準仕株書9.1/3(3)による 確認及び後片付け ※ 改修標準仕株書9.1.3(4)の(7)、(f))及び(f)による	透水層 目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出さ はパネル連結設置 (Bタイプ) に適用するものとする。 せない構造であること。	内枠の仕上げ材留付金物 アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同	
	石総合有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示・	排水層 植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しな	耐久性能 (繰り返し開閉試験) (1) 50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、().5mm以内。	TO LINE E H) W GOS
	\ \ \	排水層の鉛直方	(1) の回、100回、300回の外温の単れ下が与か、と5mm以内。 (2) 開閉試験後、使用上支障をきたす異常がない上と。 枠の寸法許容差 ±0.5mm以内	
		耐荷重性能 一般メンテナンス時の上部歩行に際人破壊しないこと。	外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内	
2 外断熱改修工事	5 断熱材 [9.2.1~4]	(排水層の許容 3×10 N / m2以上の載荷里で破損・有害な変形がないこと。 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371プレキ √ スト無筋コンクリート製品 種類: 正縮強度) N300) に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相	(試験方法) 内蓋 (内枠) の繰り返し開閉試験	
2 外断於以修工争	断熱材の種類()、断熱材の厚さ (mm)	耐根層 重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下整件長力の強い植物に対して3年以上 当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、 の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び敵へ性のあるものであること。 支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向と	(1) 試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。 吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式(天	
	施工箇所 ・ 図示 ・ ホルムアルデヒド放散量 ※ F ☆☆☆☆	耐根層保護層 材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工 する。 後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力と	材を挟んで固定しない方式)とする。標準仕様書14章4節により製作 地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り盆具4箇所	所にて各メーカー仕様に従
	外装材 防火性能 備考	(統縁シートも含む)の下に設ける場合は省略することができるものとする。 する。又、800mm×800mmに荷重板1,900N(3,000N/1 m2 相当)を1箇所設ける。試験体数は、1セットとする。	い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せ √ こう A 6901「せっこうボード製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性2級以	(上) 二重張りとする。
	既存外壁の処置	(1) 排水基盤の耐荷重性能 (イ) 3×10 N/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用他震時水平力の1/2程度の	(2) 試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰 (3) 測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎(□	
	既存外壁仕上材の撤去 ・ あり ・ なし 下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない	形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮的力に対する歪み(%)を 測定する。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)〉	定する。	\
	欠損部がある場合の改修工法 ※ 4章外壁改修工事にる・	(ロ) 試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。 3) 共通事項 加圧速度は10mm/min以下とする。 試験に使用する表面仕上げ材		
	工法 1章適用区分による風圧力 (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法	種類: タイルカーペット 繊維素材: ナイロン100 %		
	不陸等の下地調整 · 図示 · 通気層の有無 · あり(mm) · なし	かん水装置 ・ 設置する (種類 ・) パイル長: 3.0mm~4.0mm パッキング素材: 塩化ビニル機脂 既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない 全原: 6.0mm~7.0mm 単位質量: 4.0k/m2~6.0k/m2		
	断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け ※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による	人体耐電圧: 2 KV以下 新植した芝及び地被類の枯補債の期間 ※ 引き渡しの日から1年・		\
	\	5 適水性アスファルト [9.5,2~5、9]		\
		舗装改修工事 下記以外は、10章その他による		\
	\	既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示・		\
				\
				\
				\
				\
	<u> </u>			

10 9 床点検口				16 73/211	一トの気的	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による	(6. 2. 1~4)	-:T
10 9 本点接口	材種 寸法	形式	(備考) (10	単位容積	質量による	※ 普通コンクリート		
0 kg	・ アルミニウム製 ・ 450×45	0 ・一般形 ・屋内外用	· 鍵付き	種類及び	強度等	設計基準強度 (Fc) スランプ (cm) [N/mm2]	適用箇所	
112	・ ステンレス製 ※ 600×60 ・ 鋼製	・ 密閉形 ・ 屋内用	112	\		※ 2 4 ※ 標準仕様書表6.2.2による・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	※ コンクリート全て (無筋コンクリートを除く)	
	密閉形とは、ボルト、ナット等2 (品質・性能)	カニカル構造にパッキンを装着	けしたものとする。					
\	部材名 材質	屋内外用	屋内用	17 セメント		種類	(6. 3. 1)	
	受枠材 蓋枠材 アルミニウム及 ミニウム合金押	出形材 (表面処理) JIS H 860		\		※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカフライアッシュセメントA種	コセメントA種又は	
	ステンレス製	JIS G 4305ØSUS304、 SUS430J1L、SUS443J1	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B			高炉セメントB種フライアッシュセメントB種		
		(表面処理)HL又は2B 仕上げ程度		18 型枠		8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による	(6.8.2)	
	鋼製	——————————————————————————————————————	標準仕様書表18.3.1及び表	10 1 11		せき板の材料 ※ 合板 厚さ (※ 12mm ・)	
			18.3.2のさび止め塗料塗り 等の防錆処理を行ったもの	\	\	・ メッシュ型枠 ・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ25mm以T	かつ熱抵抗値 1 m h ℃/ k C a l 以上	
	二重蓋の中蓋 鋳鉄 その他	JIS G 5501のFC150、FC 塩化ビニル樹脂製等	C200	19 無筋コン	·ク\リート	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による	(6. 14. 1)	
	目地材 黄銅	JIS H 3100 のC2600、C JIS H 3250 のC3602、C				種 類 設計基準強度 (Fc) スランプ [N/mm2] (mm)	施工箇所	
	ステンレス	JIS G 4305ØSUS304、SI JIS G 4308ØSUS304			\		標準仕様書6.14.1(4)(7)~(カ)による	
\	底板材コーナー ステンレス鋼板	JIS G 4305ØSUS304、	JIS G 4305ØSUS430		\	種類		
	ピース底板補強 材	SUS430J1L, SUS443J1 J1S G 4308ØSUS304			\	※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカフライアッシュセメントA種	コセメントA種又は	
	アルミニウム板	JIS H 4000 (A1100P H24) 表面処理:陽極酸化塗			1	高炉セメントB種フライアッシュセメントB種		i
		合被膜 JIS H 8601 (AA1: JIS H 8602 (B)		20 床コンク	-U-k		(8.1.4) (表8.1.5)	
	鋼材	-	鋼製又はJIS G 3313にメラ	直均し仕		仕上げの平たんさは、図示以外は下記による		i
			ミン樹脂焼付塗装若しくは、 標準仕様書表18.3.1及び表			改修標準仕様書表8.1.5に 施工 よる平たんさの種別		
			18.3.2のさび止め塗料塗り 等の防錆処理を行ったもの			a種	り、床コンクリート直均し仕上げ、) ()	
	パッキン材		質塩化ビニル、クロロプレン、 レンプロピレン等枠の材質、			b種 カーペット張り、防水下地、セ	ルフレベリング材塗り	
	アンカー材	形状に適した弾力性、				c種 タイル張り、モルタル塗り、フ	リーアクセスフロア (支柱調整式)	
	取手		アルミニウム押出形材・合金	21 あと施工	アンカー	/	(14. 1. 3)	
	\	ステンレス鋼材、アル	ミニウム押出形材などで被覆	ここのと他上	., , , , , , –	6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事	にかかる部分は除き、下記による	
		した、合成樹脂製のもの が生じないものとする	のは、衝撃による変形・割れ			あと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う・ 行わ	ない	
	鍵	黄銅製、ステンレス製、 施錠・開錠は、鍵又は	、亜鉛合金製とする 開閉用ハンドル式とする	22 トイレブ	ース		(20. 2. 5)	
	蓋の耐荷重性能		,000Nにおいて残留たわみが点検			表面材の材料 脚部 ドアエ 形状 材質		
		受け枠、蓋その他の使用				※ メラミン樹脂系化粧板 ※ 幅木タイプ ※ アル	レミニウム製	
	受け枠寸法の許容差 ±0.5mm	以下	FIIOZE以上であること。				面材と同材	
	蓋付寸法の許容差 ±0.5kmm 受け枠と蓋枠のクリアランス 月					(品質・性能)		
	(試験方法) 耐荷重試験					(1) パネル 項目 品質・性能		
		n角程度、枠見込みは、40mm以 、蓋の中央部にφ50mmの加圧				表面材 メラミン樹脂系、ポパエステル樹脂系化粧板又は 裏打材 JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質の		
	本試験前に200Nを加圧した後	本試験を行う。	その後試験体が破壊する(終局			び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミ 心材 JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質と	ン樹脂系単一材の場合は適用しない。	
	荷重)まで加圧する。					材の場合は適用しない。		
	測定は、蓋中央部にかかる加出 1,000Nまで3回繰り返す。	Eを200N増す毎にたわみと受けれ	枠の変形その他の異常について			枠材 JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質の エッジ材 処理を施した材料とする。	つっち、鋼材については、亜鉛めっき	
10 手すり		\				小口 防水処理を施す。		
	材質 ・集成材 ・ ク		圣 (mm) 取付箇所 ・ 45 ・			(2)構造金物 項目 品質・性能		
	・ ステンレスパイプ ・ H					脚部 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び (脚具、幅本) SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。	岡帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、	
	・ビニル製ハンドレール	1						i
11 天井見切り縁等	壁及び下がり壁と天井の取合いの		建見切縁)の材種			(3) 付属金物 項目 品質・性能		
	※ アルミニウム既製品・	ビニル既製品				ヒンジ 耐蝕性のあるものとする。		i
12 視覚障害者用床 タイル	施工箇所		(11.2.2、19.2.2) 法 (mm) 厚さ (mm)			戸当り 腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施して 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質で		
(視覚障害者誘導 用ブロック	屋内		×300 · 7.0 ·			(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5. b) による	-	i i
		レジンコンクリート製 ※ 300×				(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性		
	屋外	コンクリート製 セラミックタイル ※ 300>				項目 品質・作 耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性	
	- :	ンジンコンクリート製 ※ 300× コンクリート製	× 300 · ·			メラミン樹脂系化 JIS K 6903 (2008) 「熱硬化性樹脂高圧 粧板及びメラミン 粧板及びメラミン 化粧板」の表8品質による耐汚染性	1	
	突起の形状、配列及び寸法は JI:					樹脂系単一材 (B法)の規定を満足していること。 低圧メラミン樹 ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリ	エステル樹脂系化粧MDF、ポリエス	
13 鉄筋	8章耐震改修工事にかかる部分に 種類の記号		(5. 2. 1) (表5. 2. 1)			脂系化粧板 テル樹脂系化粧パーティクルボードのい ポリエステル樹脂 JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊	ずれかの品質に適合していること。	
	% SD295A %	呼び名 D 1 6以下	備考			系加工化粧合板 加工化粧合板に示された耐汚染性B試	殊加工化粧合板に示された耐引っか	
	% SD345 %	D19以上					平均値が10μm以内であること。	
			\			ポリエステル樹 IS A 5905「繊維板」の表18の規定に適額 脂系化粧MDF	当していること。	
14 溶接金網	8章耐震改修工事にかかる部分に 種類	除き、下記による 関目寸法、鉄線の径(mm)	(5. 2. 2)			ポリエステル樹 JIS A 5908「パーティクルボード」の表1 脂系化粧パー していること。	1の規定に適合	
	※ 溶接金網・ 鉄筋格子	A STATE OF THE ASSESSMENT OF T	7.3			ティクルボード (試験方法)		
	'					(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法・	一第2部:ドア用金物」に規定する試	i i
15 鉄筋の継手及び定	第 8章耐震改修工事にかかる部分は 鉄筋の継手の方法等	除き、下記による	(5. 3. 4)			験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験に、		
	※ 重ね継ぎ手 ・		\			パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512により	「F☆☆☆☆以上 ・	
	鉄筋の重ね継手の長さ ※ 40 dと標準仕様書表5.3	. 2の重ね継手の長さのうち大き	きい値とする				\	
		vx_10m2TV以CUJ5人6	\				\	
		り鉄筋の直線定着長さは40d以	以上とし、それ以外は				\	
	標準仕様書表 5.3.4 によ	5	\					
	機械式定着工法・適用する		\					
	適用箇所 ・ 図示による	・ 螺合グラウト固定 ・嵌合グ	プラウト固定					
							\\	; <u> </u>

設計年月:2025年 10月

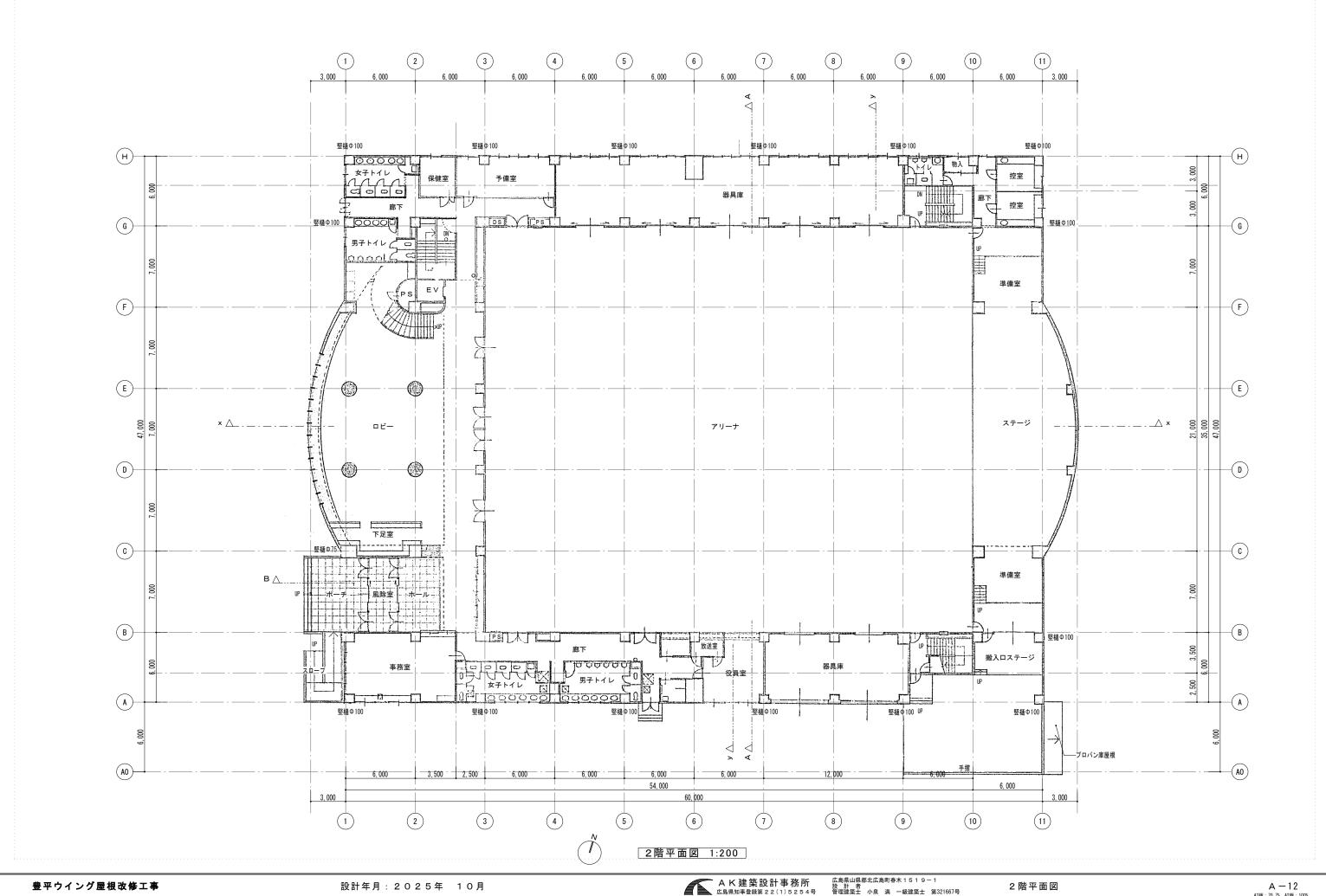
A — 08 A3版: 70.7% A2版: 100%

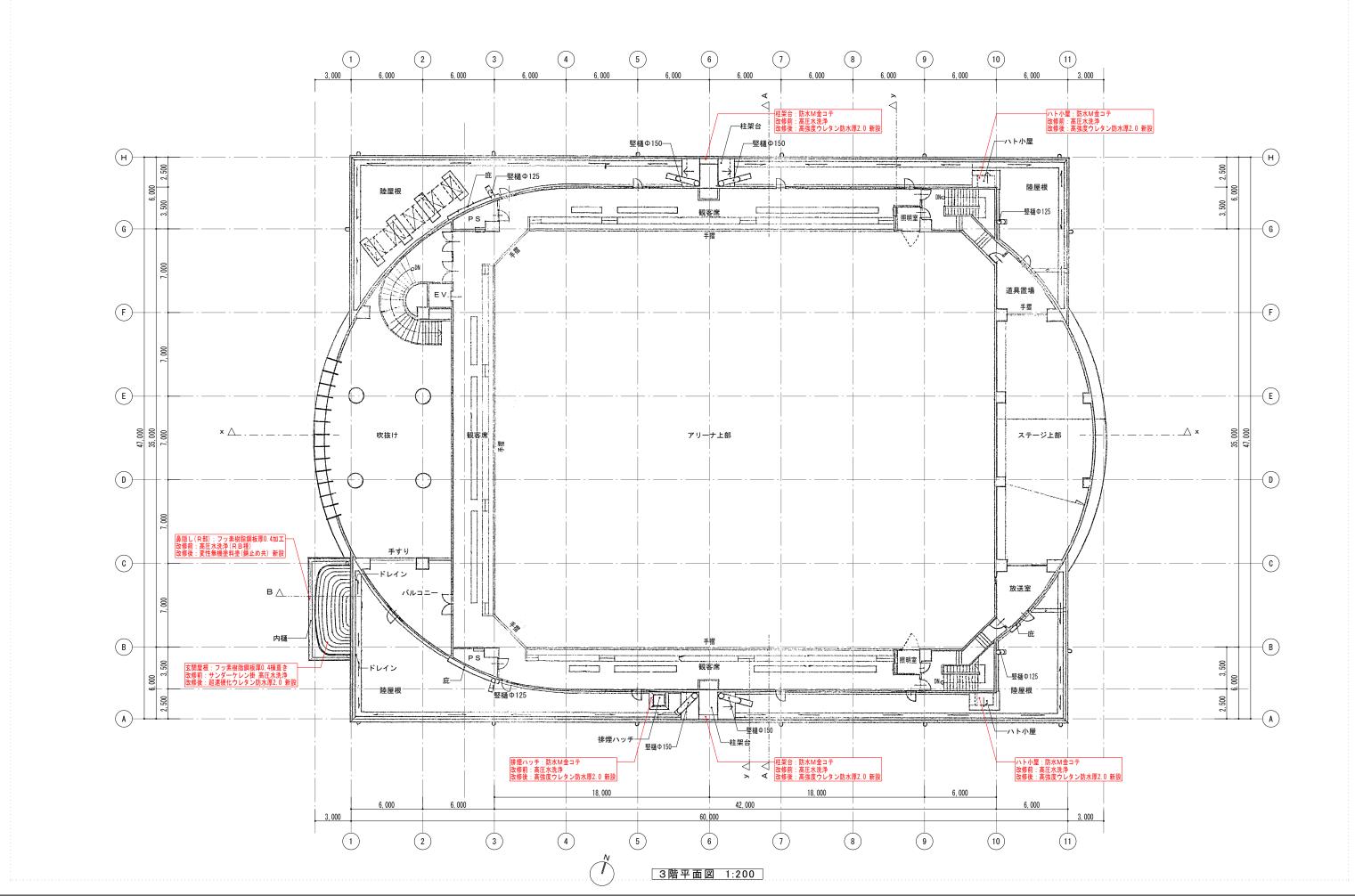


計画概	要	凡例		防火性能認定番号	特 記 事 項	
建物概要		C : コンクリート : エルタル			1. 特記なき限り、撤去する周囲にはカッター入を行う。 2. 内部仕上表の下地欄()は既設部分を示す。	
建 築 主 建 築 主 住 所	北広島町長 〒731-1595 広島県山県郡北広島町有田1234	· · · · G L · · · · · : ガルバリウム鋼板	左		3 . 3 . 3 . 4	
敷地の場所 敷地面積	〒731-1712 広島県山県郡北広島町都志見12609 -㎡	— 般			5.	
前面道路 用途地域 防火地域	前面道路 : -m 都市計画区域内外 指定なし		C L : クリヤラッカー V P : 塩化ビニル樹脂塗		7.	
その他区域	宅地造成工事規制区域				8.	
施設名称建物用途	とよひらウィング 建築基準法: he fight				参考品番	
面積	建築面積: 3015. 49㎡ 延床面積: 4068. 42㎡ (1階: 542. 84㎡、2階: 2865. 62㎡、3階: 559. 96㎡) RC造 2階建て 準耐火建築物 軒高: 10.10m、最高高さ: 26. 95m -% ≤ -96		······································		屋 根 フッ素樹脂鋼板横葺き:美段ルーフ9 三晃金属工業 超速硬化ウレタン防水:シーカ・ジャパン クイックスプレー SPM-200工法 フッ素系高反射トップコート	
構造 建物高さ		#	装		高強度ウレタン防水:シーカ・ジャパン エバーコートZero-1H ZHM-200L工法 フッ素系高反射トップコート 鼻隠し 変性無機塗料:シーカジャパン 弱溶剤 柔軟・透湿タイプ超耐候・超低汚染型 変性無機塗料 スーパーセランソフィア	
建 蔽 率 容 積 率 そ の 他	-% ≦ -% -% ≦ -% 建 設:1996年(平成8年)3月	デ 類				
工事概要						
	艮の雨漏り改修					
3 . 4 .						
5. 6.		・ SR-1・・・・シリコーン系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	◇ 仕上見切を示す ◇ シーリングを示す		石綿含有建材	
7 . 8 .		リ MS-2・・・・・ 変成シリコーン系・・・・・・・・・・・	▼		該当なし	
9.		グ PU-2 : ポリウレタン系 PS-2 :: ポリサルファイド系 :: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			石綿事前調査者:AK建築設計事務所 小泉満(修了番号:2306220711、講習機関名:SAT株式会社)	
外 部 仕	上 表 (改 修 前 ・ 後)					

部位	改 修 前	改 修 後	部 位	改 修 前	改修後
屋根	フッ素樹脂鋼板厚0.4横葺き、裏面がリフォーム厚4 サンダーケレン掛(RB種) 高圧水洗浄 改質ゴムアスルーフィング下葺き 既設のまま 野地板:硬質木片セメント板厚15 既設のまま 既設漏水対策部:シート防水厚2.0 撤去 防水下地改修部:フッ素樹脂鋼板厚0.4横葺き 改質ゴムアスルーフィング 撤去	 超速硬化ウレタン防水厚2.0(フッ素系高反射トップコート) 新設 継手・段差・雪止め・避雷針取付金具: PU-2 10×10 新設 防水下地改修部:カラーGL鋼板厚0.4横葺き(防水下地用)、裏面ポリエテレンフォーム厚4 新設	排煙ハッチ ハト小屋 柱架台	排煙ハッチ:アクリル樹脂ドーム 既設のまま アゴ・天端:防水M金コテ 高圧水洗浄 壁取合い:シーリング 撤去	 アゴ・天端:高強度ウレタン防水厚2.0(フッ素系高反射トップコート) 新設 壁取合い:PU-2 20×15 新設
樋	内樋: 耐酸被覆鋼板厚0.4加工 硬質木片セメント板厚15下地 サンダーケレン掛(RB種) 高圧水洗浄内樋(玄関屋根): SUS厚0.4 シームレス工法 硬質木片セメント板厚15下地鼻隠し(R部): 耐酸被覆鋼板厚0.4加工 高圧水洗浄(RB種) 竪樋: 3階 OP 印150(見え掛)、3階 SUSHL 中125 既設のまま 1~2階 SUSHL 中100 既設のまま	内樋:高強度ウレタン防水厚2.0(フッ素系高反射トップコート) 新設	シーリング	鼻隠し(R部)継手@1800(R部 @900):20×15 撤去 内樋立上り取合い:20×15 撤去	 鼻隠し(R部)継手@1800(R部 @900): PU-2 20×15 新設 内樋立上り取合い: PU-2 20×15 新設
陸屋根	平場:シート防水 As防水 既設のまま 立上り:シート防水 押え金物 既設のまま		ポーチ	床:磁器質タイル 既設のまま 巾木:花崗岩本廳 H120 既設のまま 壁:撥水剤塗 タイル貼り 既設のまま 乗:アルミスパンドレル LGS下地 既設のまま 段部分縁笠:花崗岩本磨 既設のまま	
プロパン庫屋根	フッ素樹脂鋼板厚0.6 既設のまま		ピロティ	床:歩道ブロック、一部C金コテ 既設のまま 天井: C打放し、VP 一部セメント板厚5 既設のまま	
玄関屋根	フッ素樹脂鋼板厚0.4横葺き(美段ルーフ9) M下地 サンダーウレン掛(RB種) 高圧水洗浄内樋(玄関屋根):SUS厚0.4 シームレス工法 硬質木片セメント板厚15下地	 超速硬化ウレタン防水厚2.0(フッ素系高反射トップコート)新設 経手・段差・雪止め:PUー2.10×10.新設 鼻隠し(R部):変性無機塗料塗(錆止め共)新設 	搬入出ステージ	床: C直均し 既設のまま 壁: 撥水剤 C打放し 既設のまま 天井: V P 石綿セメント板厚5 既設のまま	1 1 1 1 1
軒裹	カラー鉄板厚0.6パネル 既設のまま	 			1 1 1 1 1
外壁	撥水剤塗、C打放し(化粧目地、伸縮目地共) 既設のまま 磁器質口45モザイクタイル貼り(伸縮目地共) 既設のまま 倉庫: C L 杉板貼り A L C下地				
根廻り					

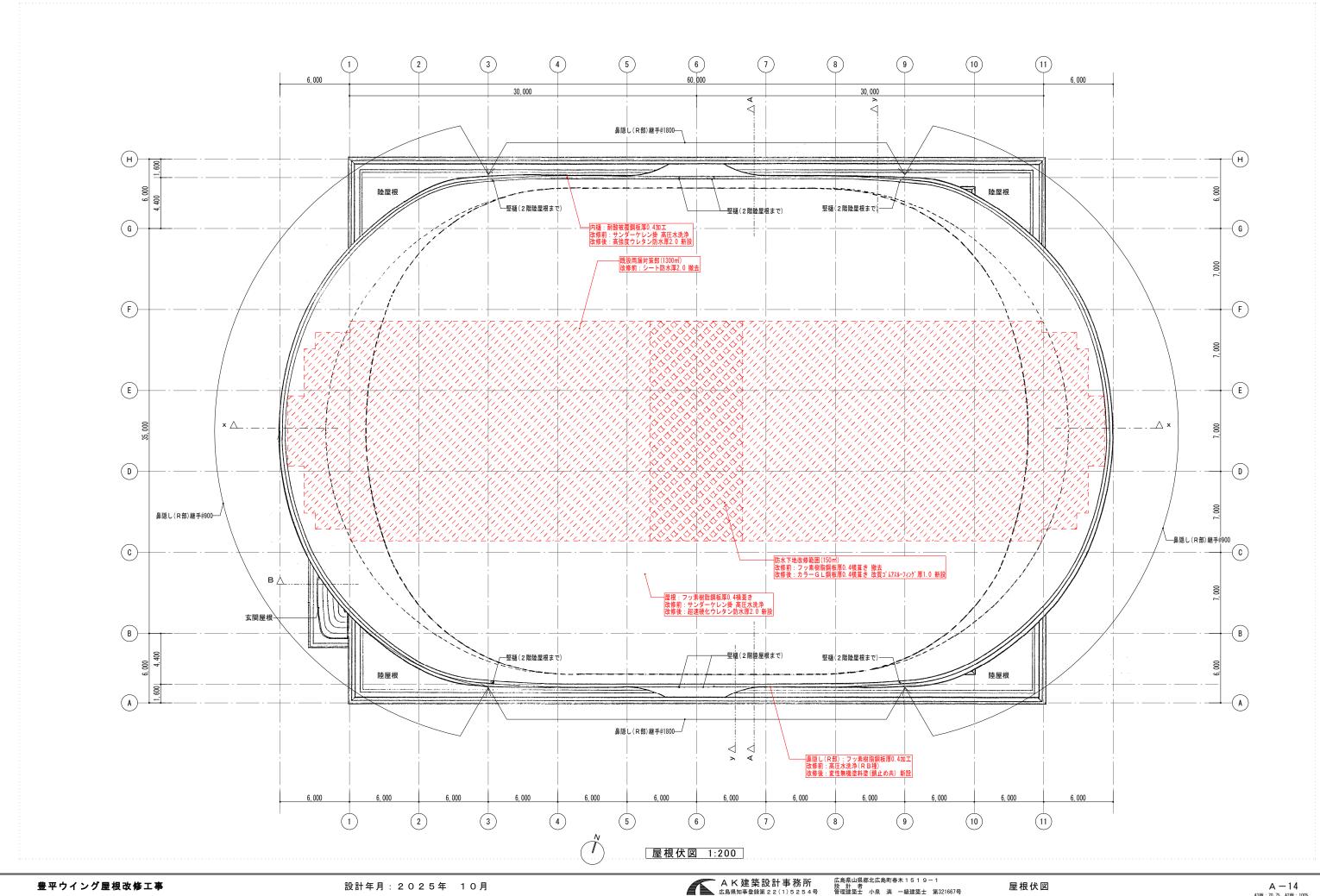


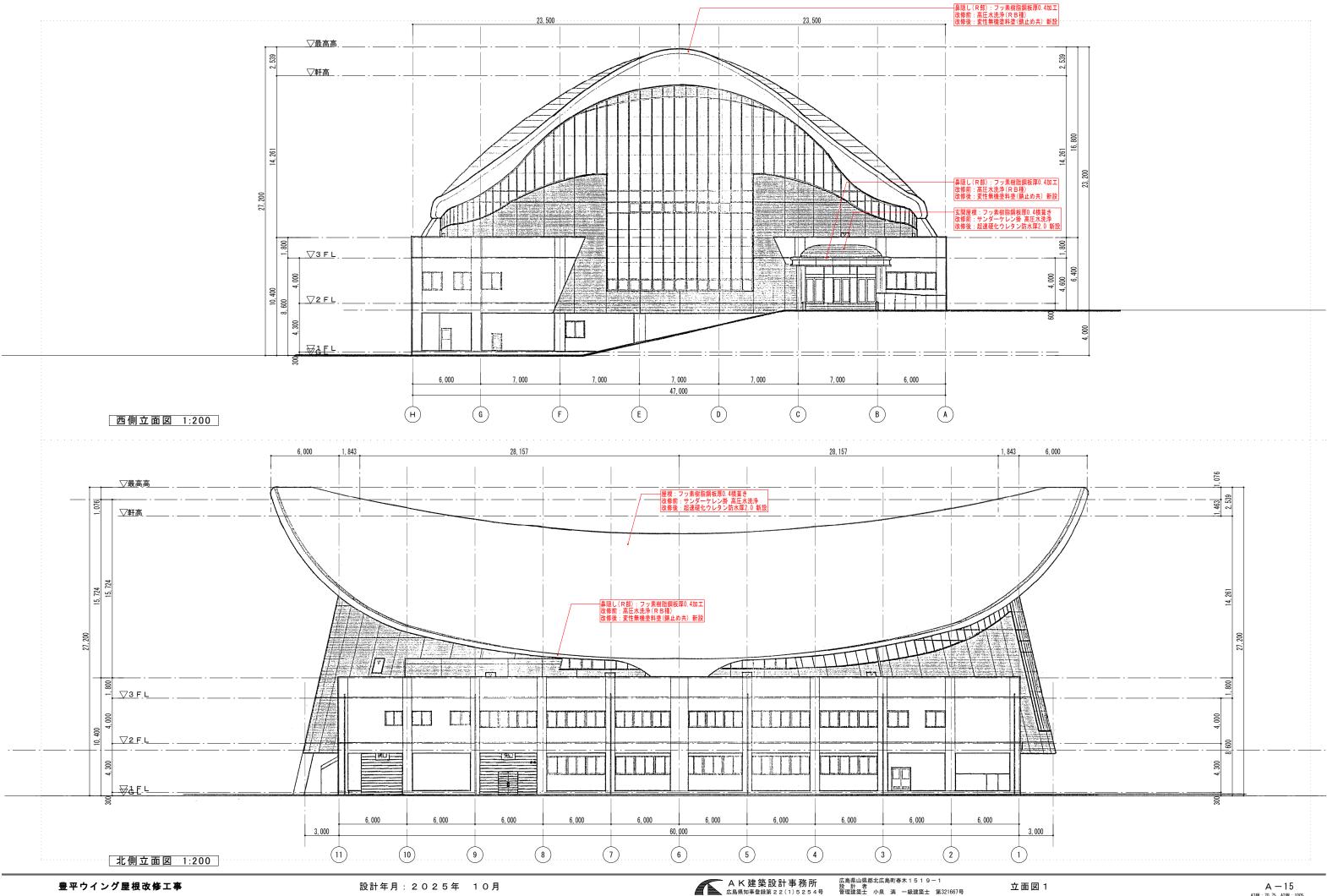


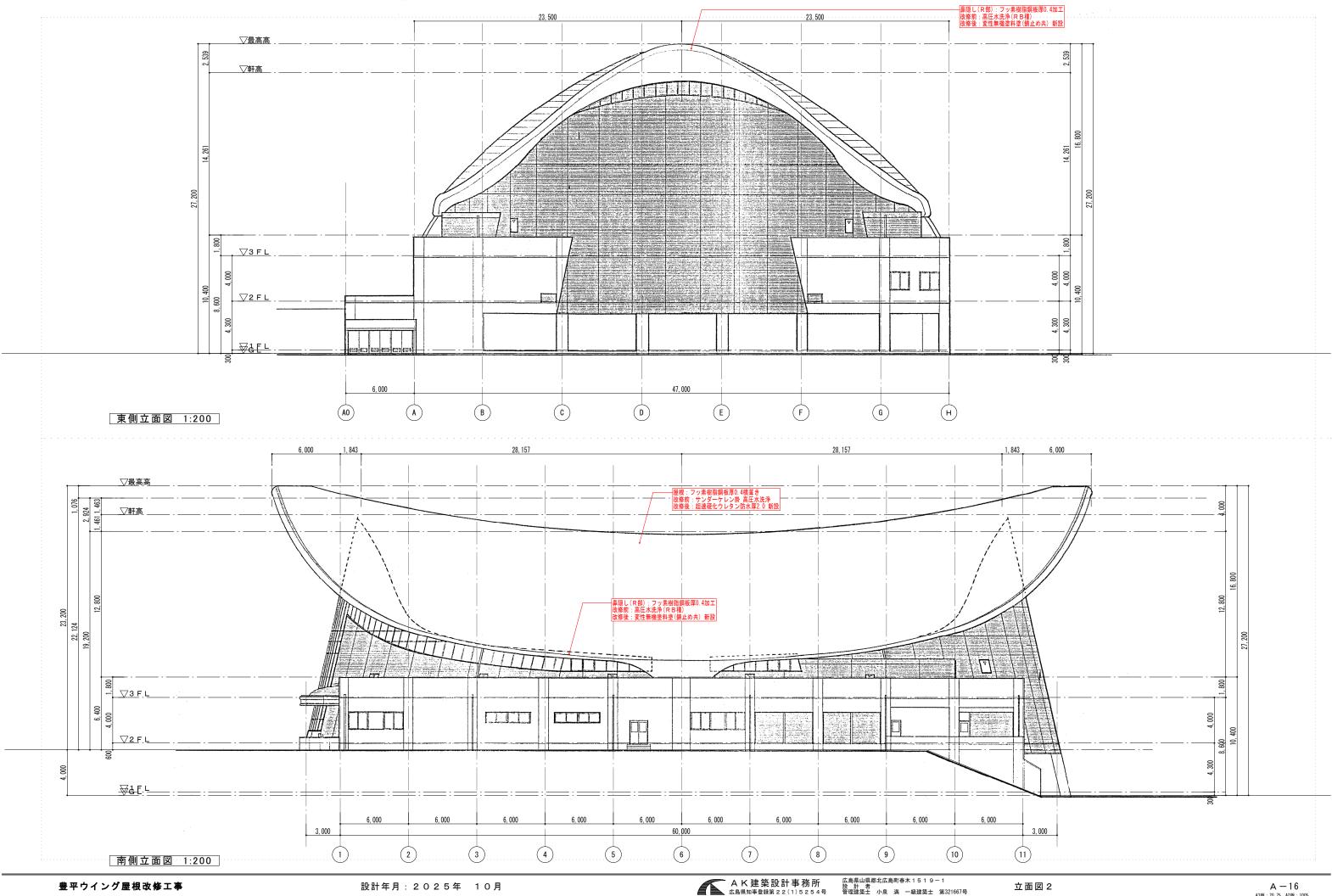


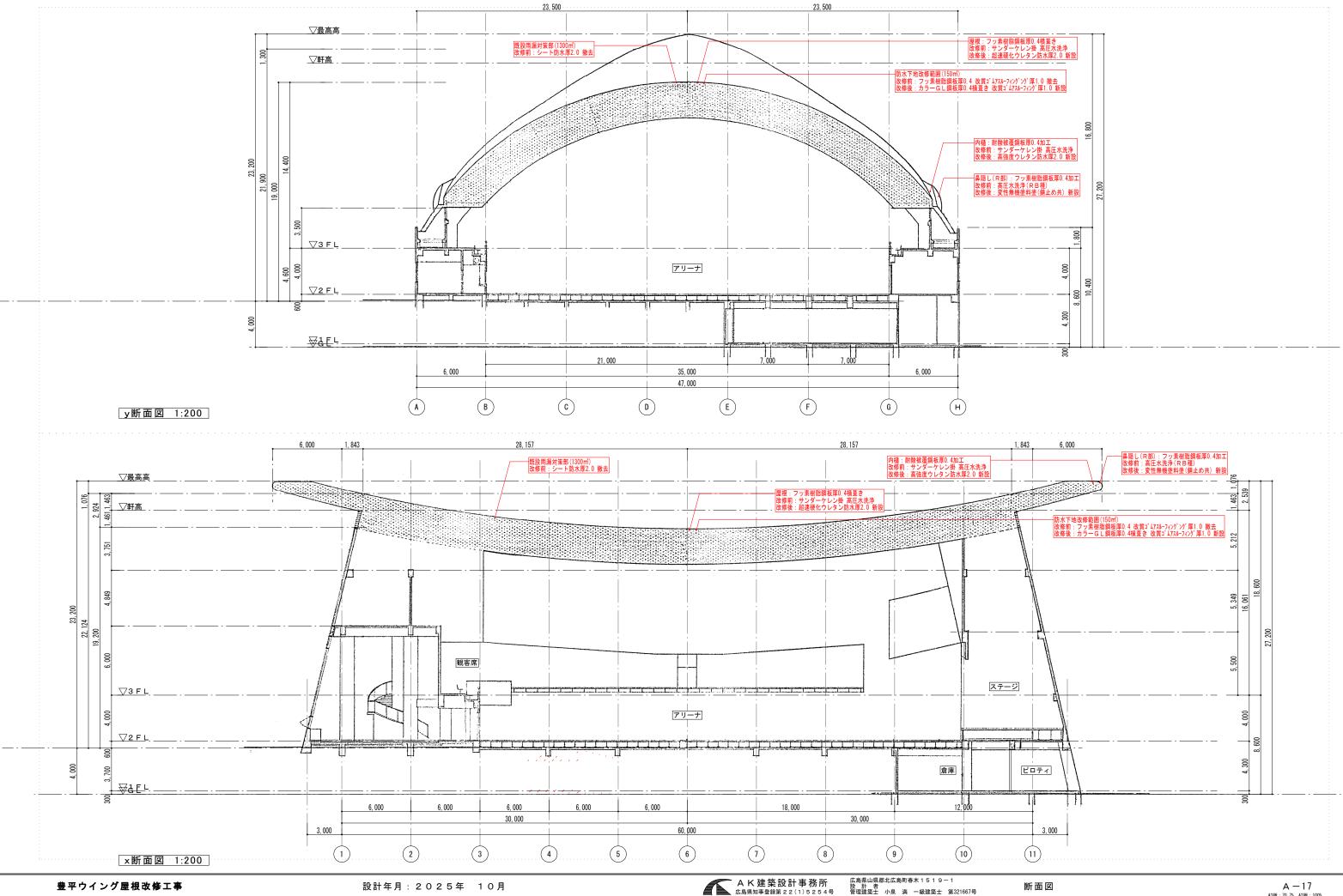
設計年月: 2025年 10月

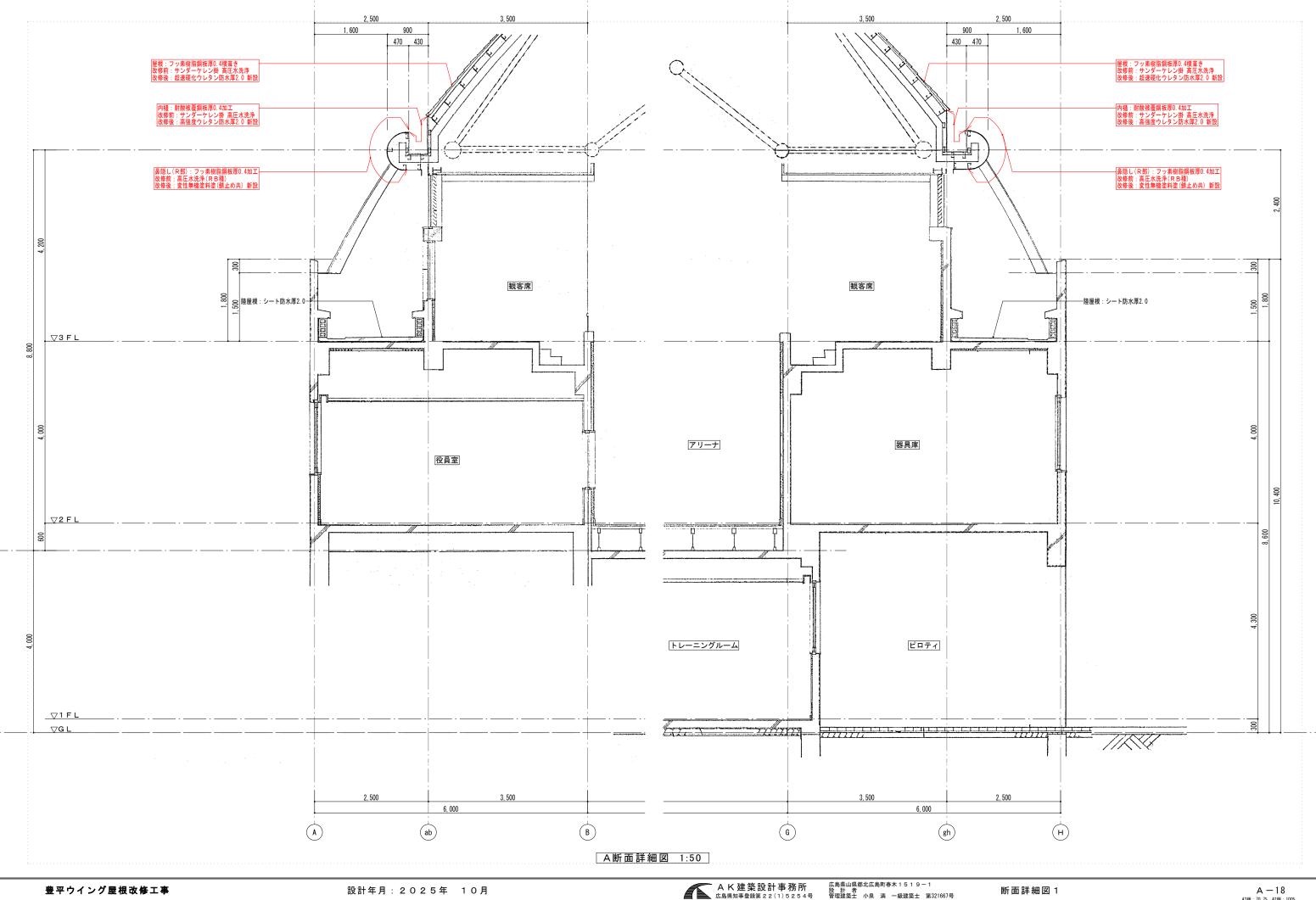
A — 13 A3版: 70.7% A2版: 100%

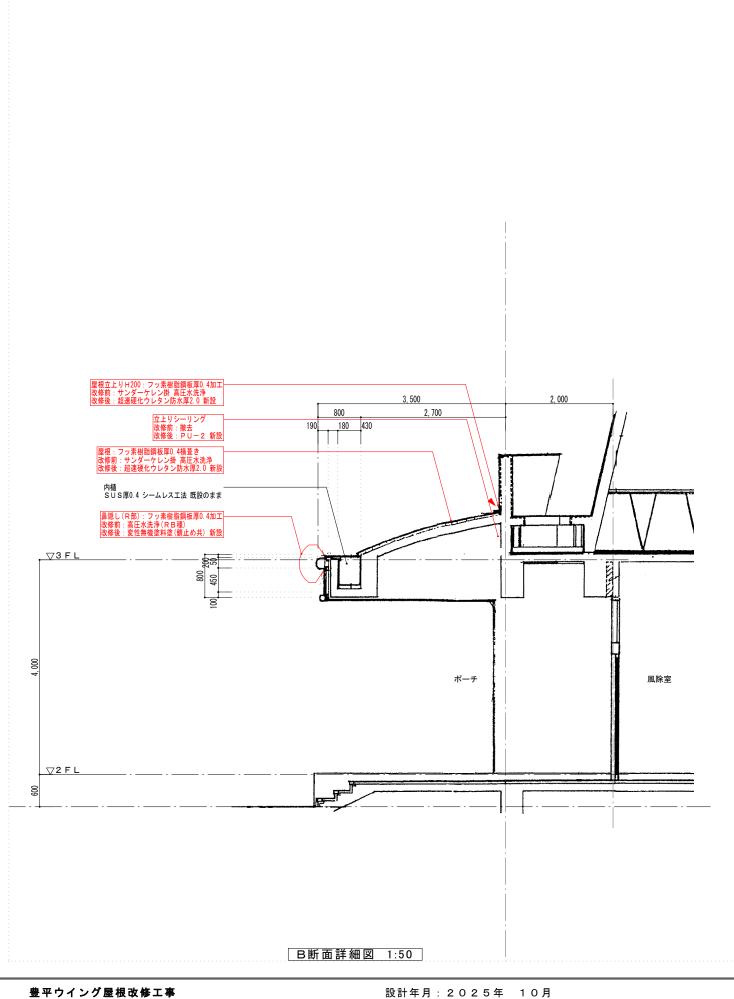




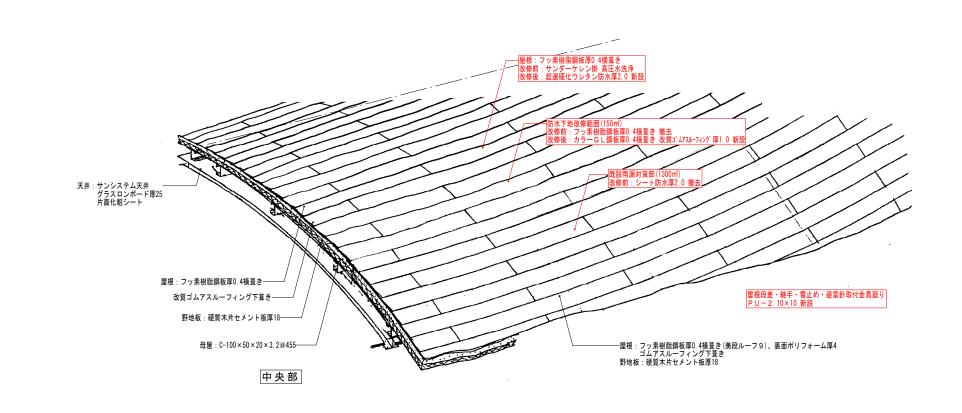


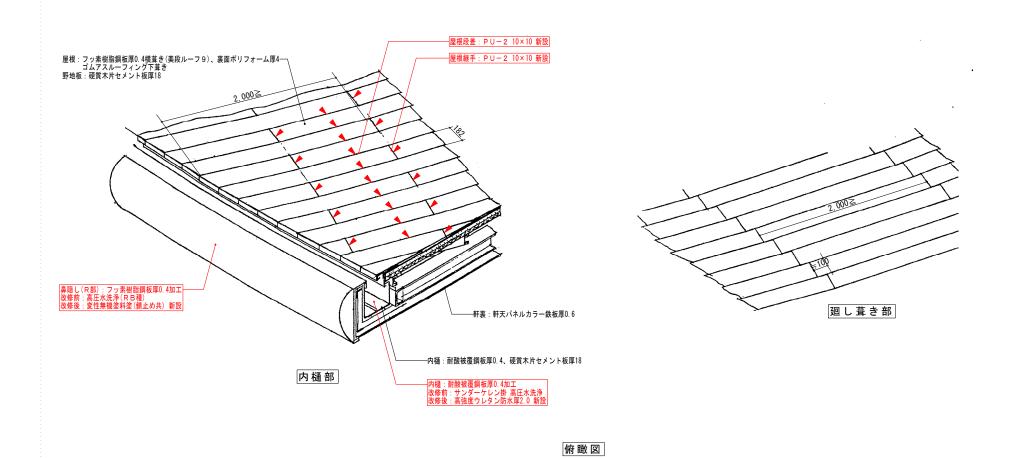


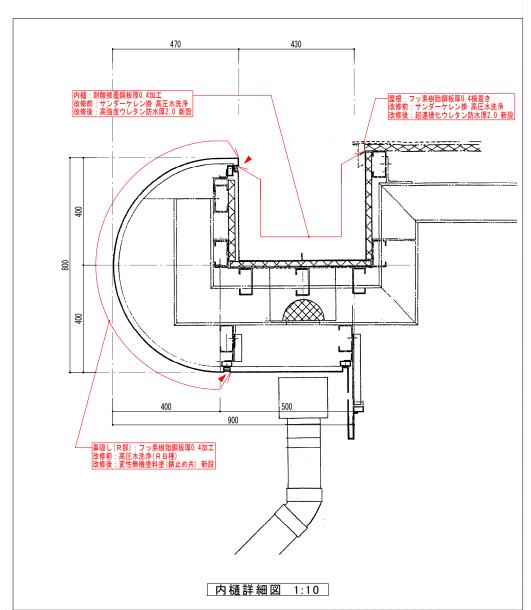


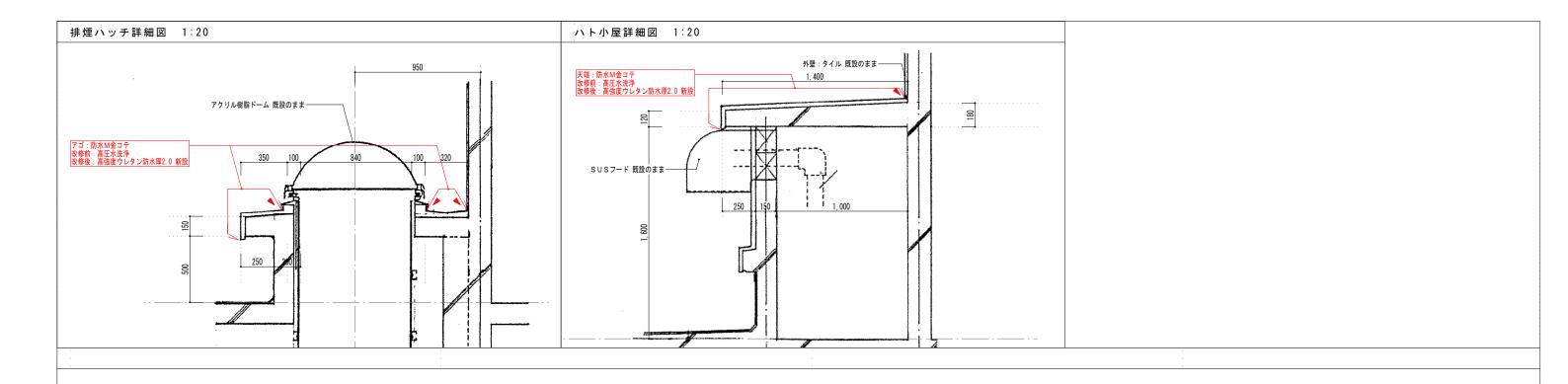


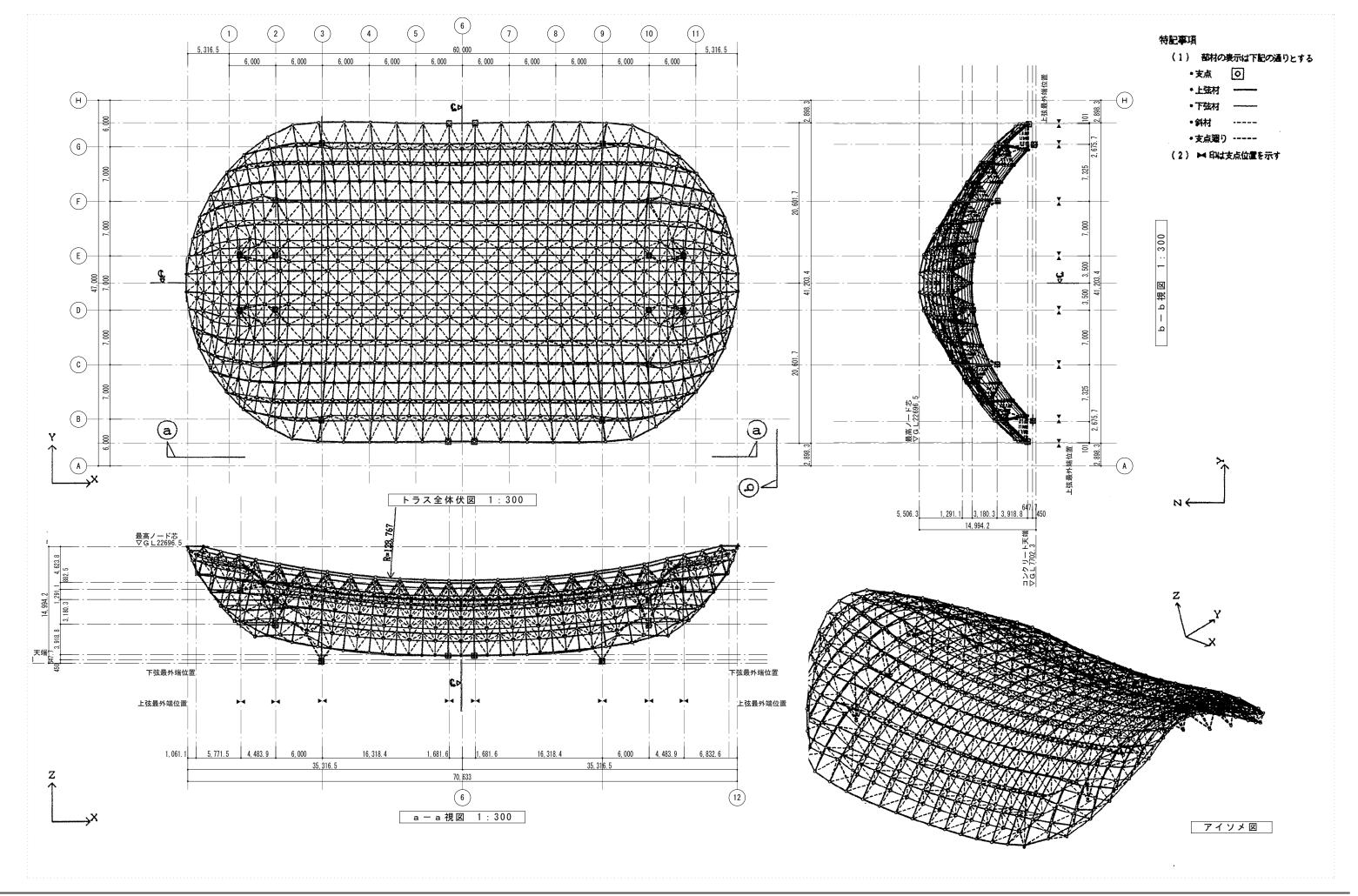
広島県山県郡北広島町春木1519-1 設計者 管理建築士 小泉 満 一級建築士 第321667号

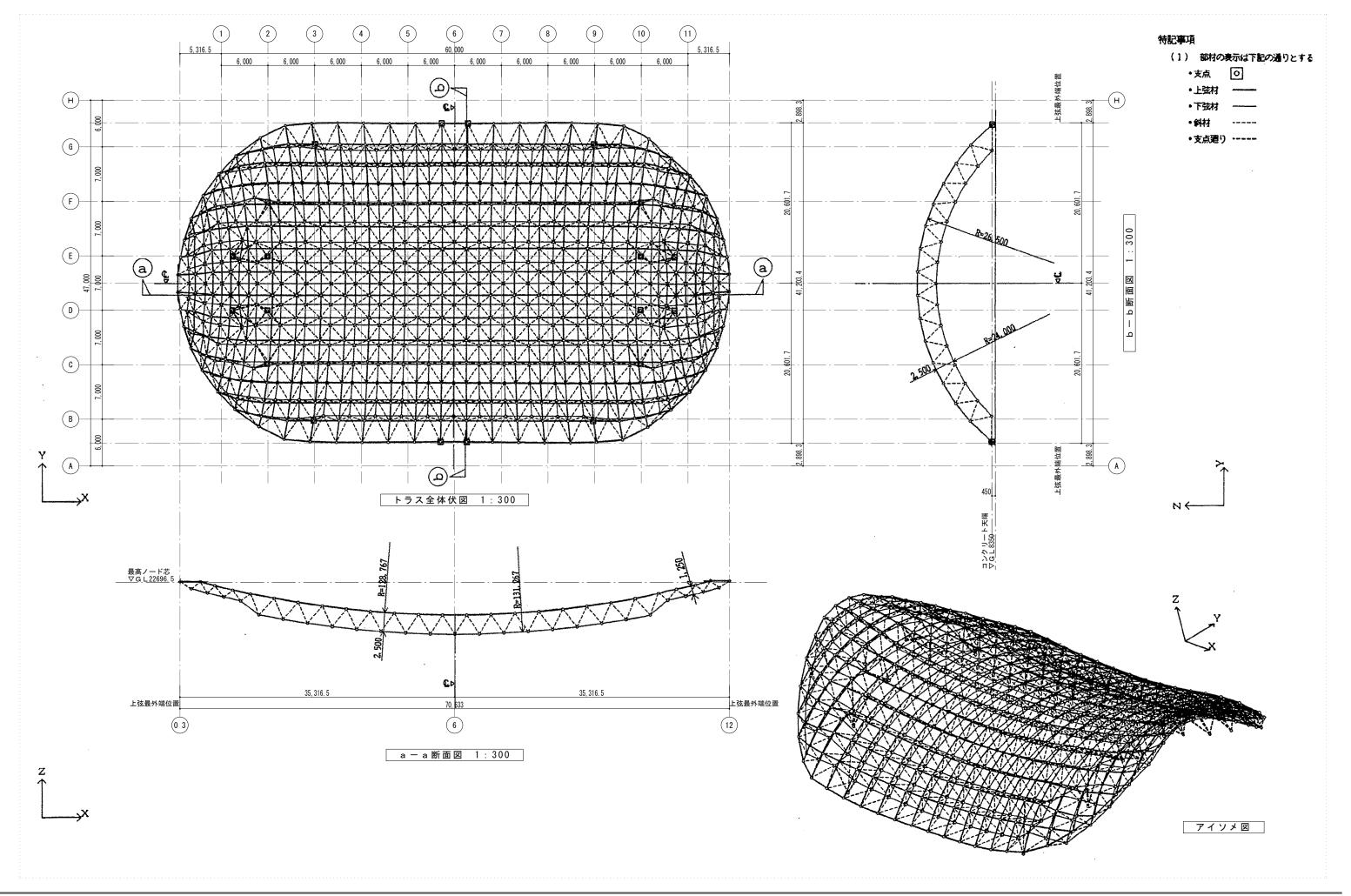


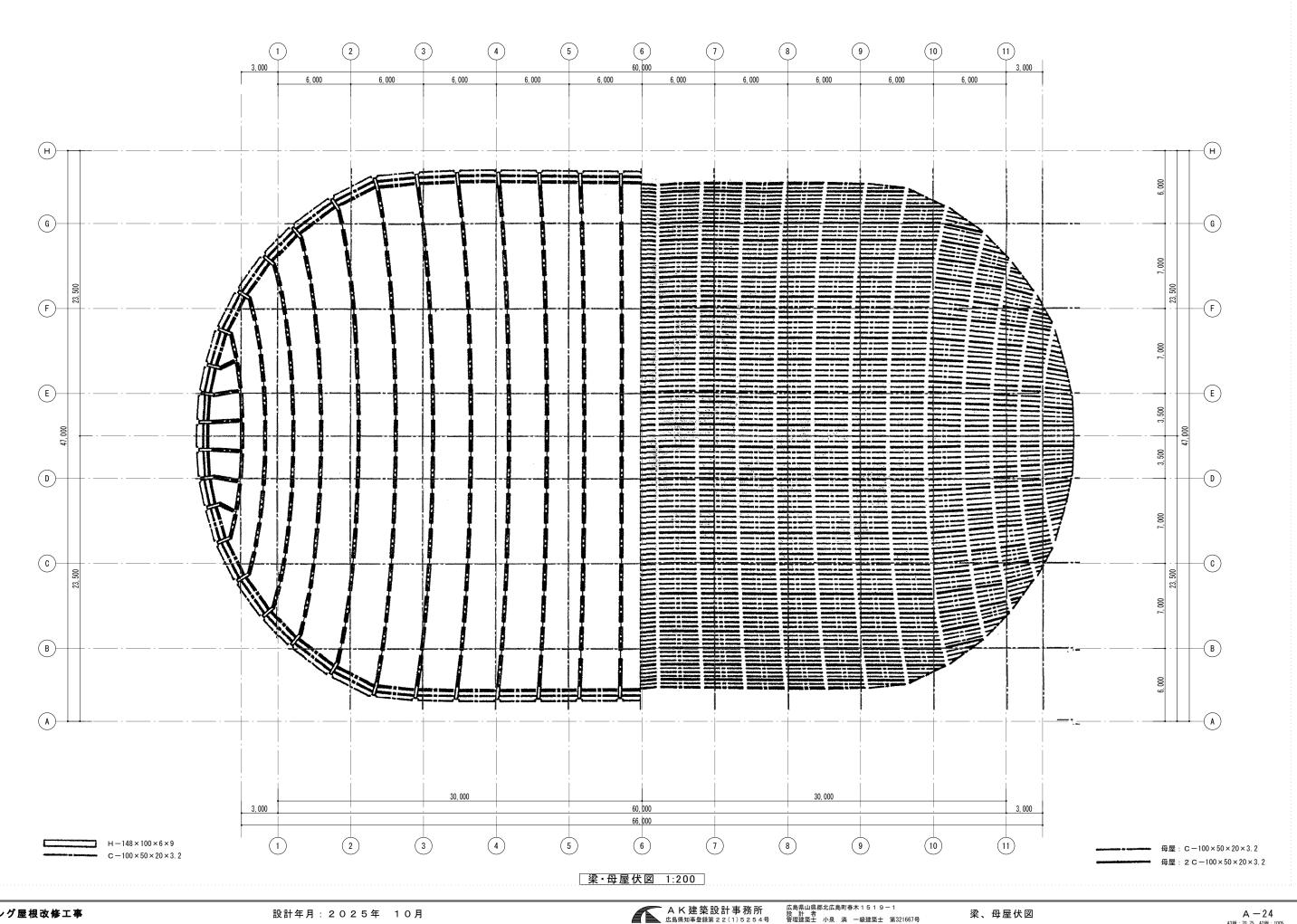


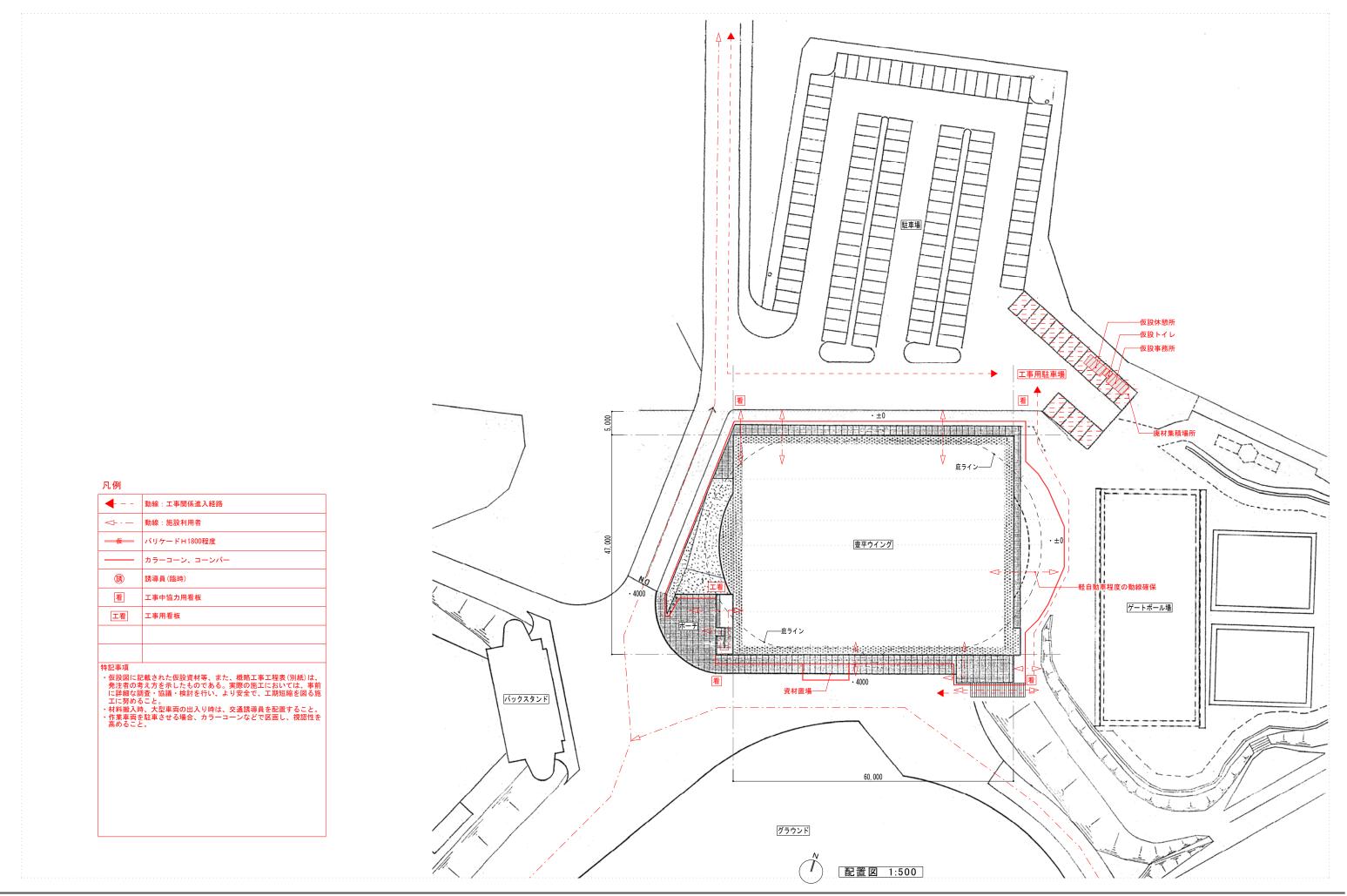


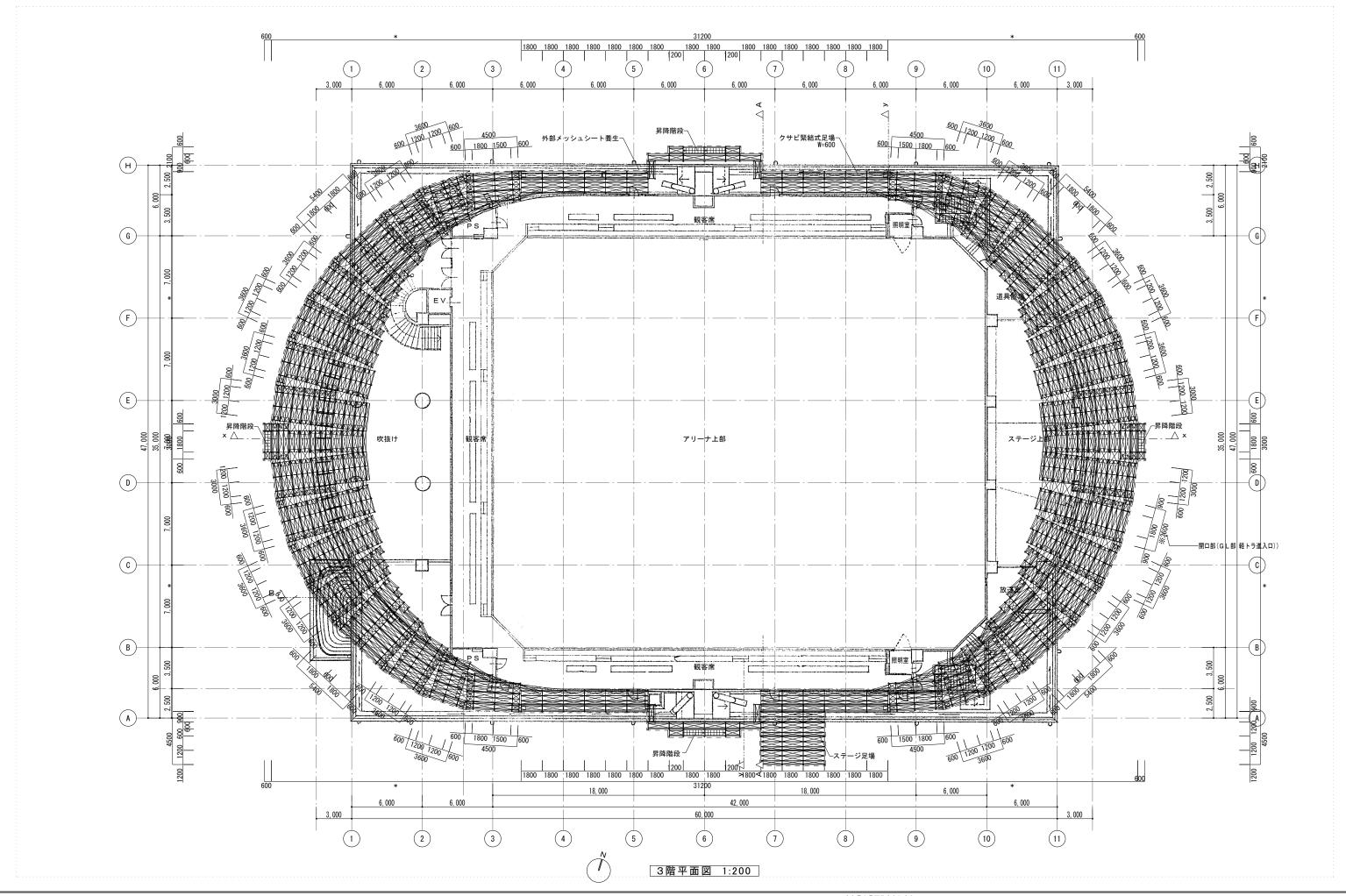


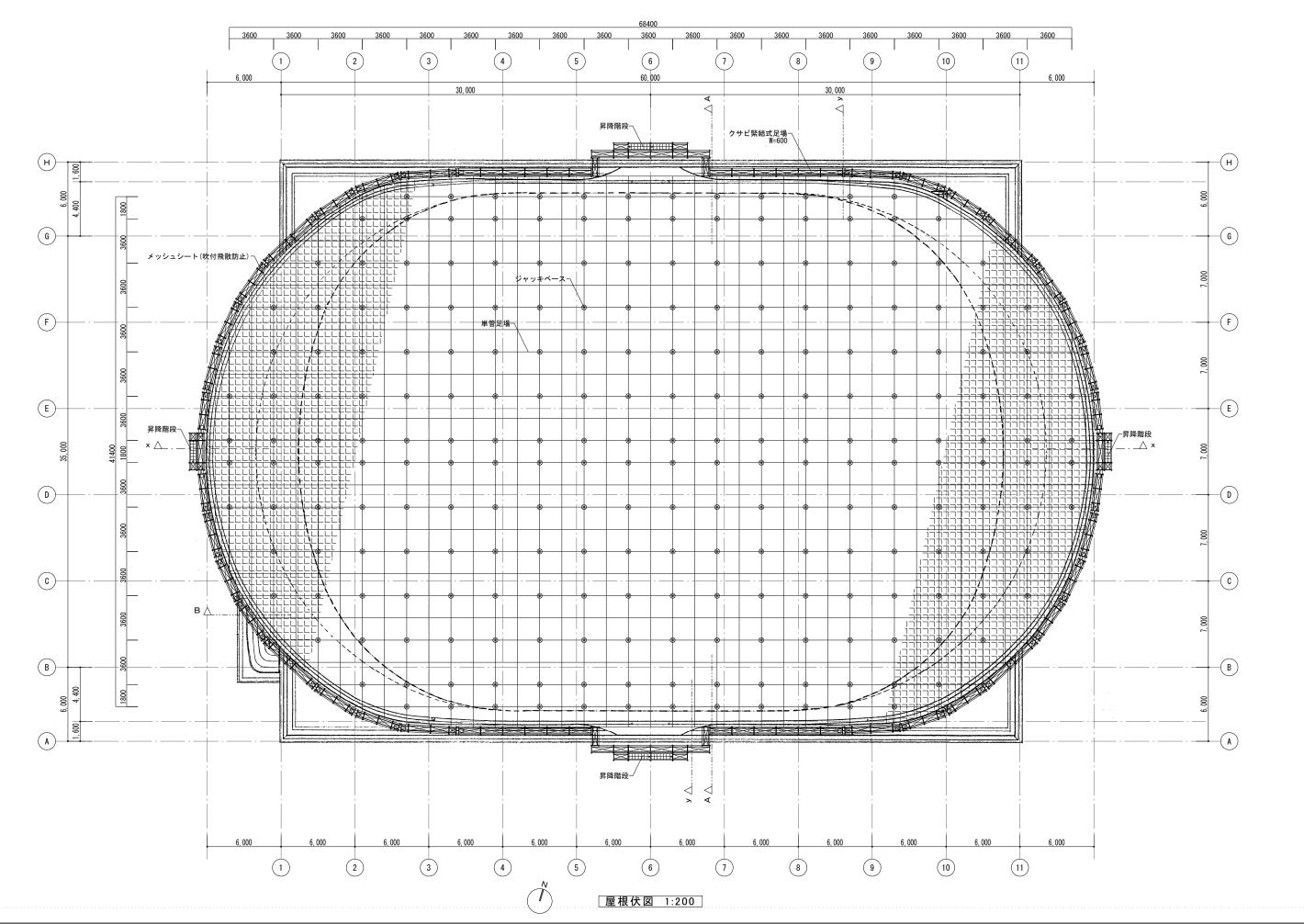






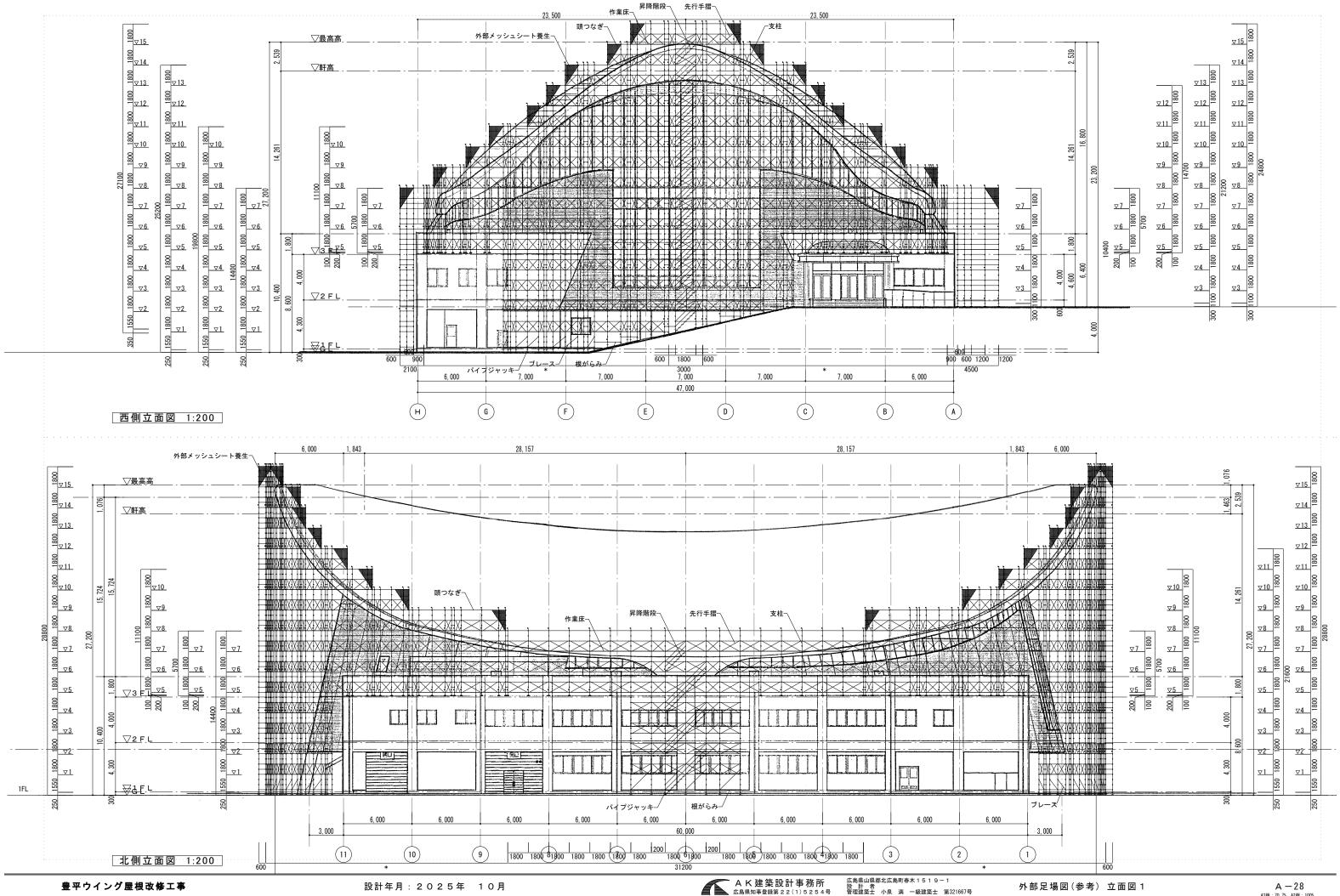


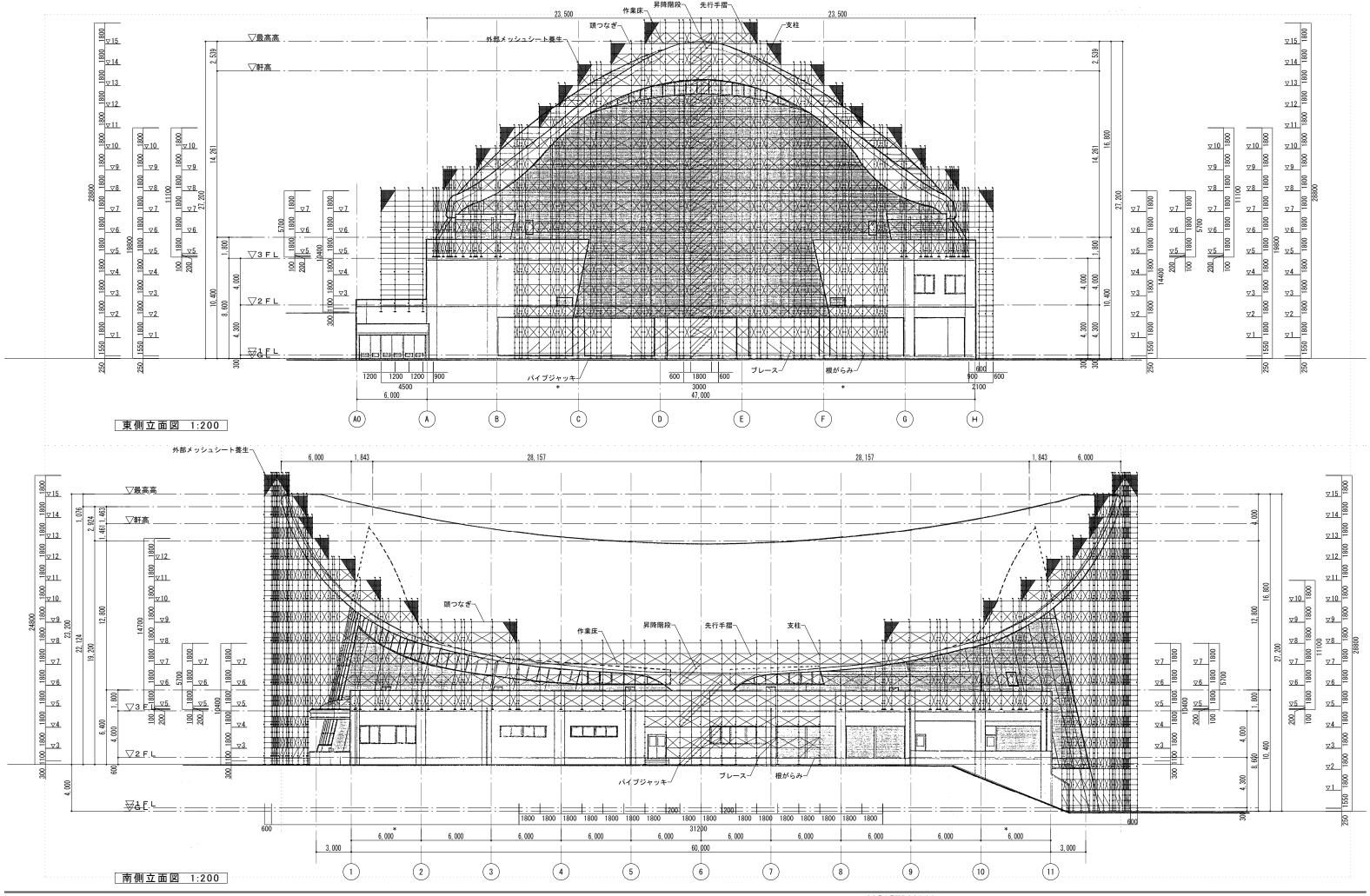


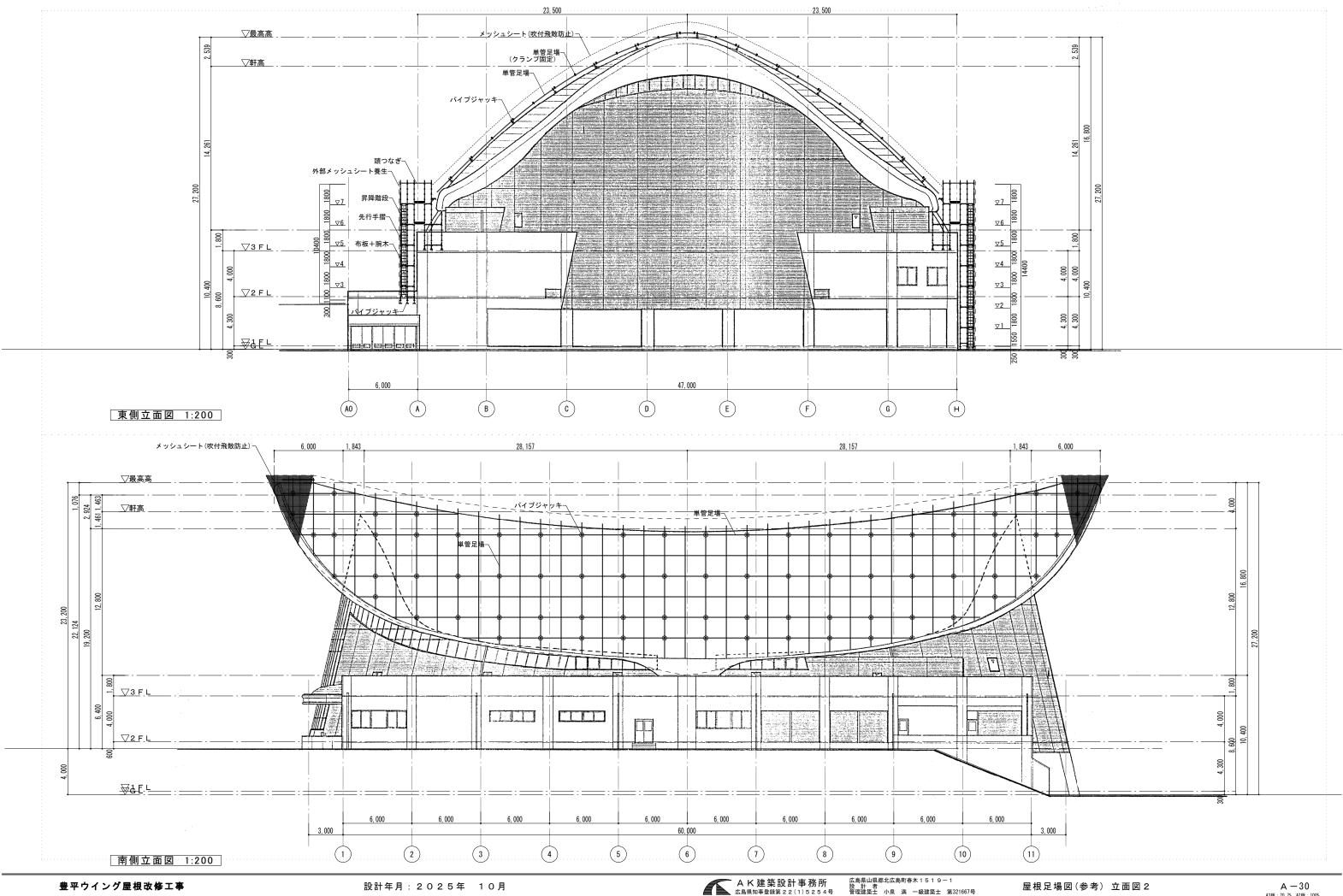


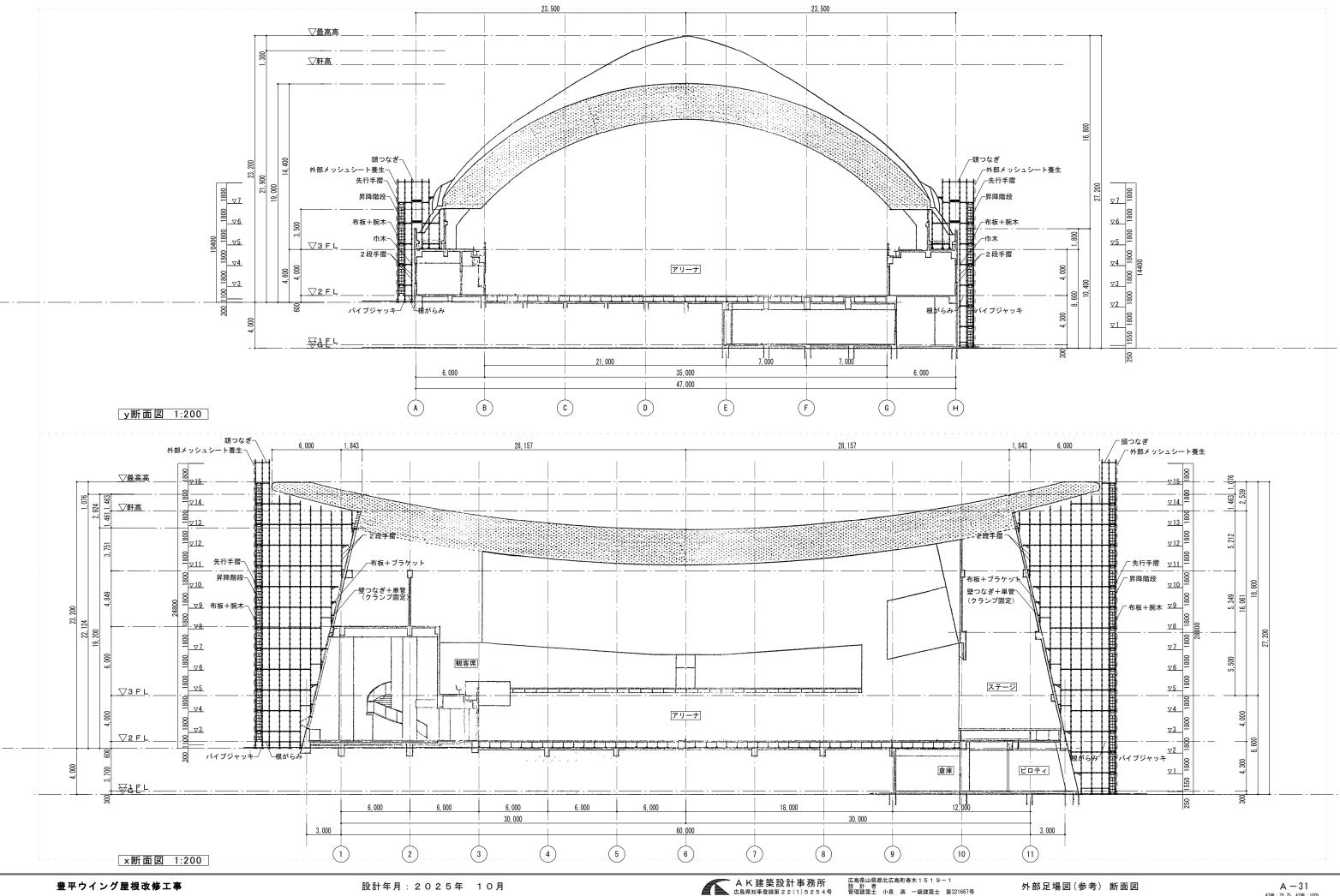
設計年月:2025年 10月

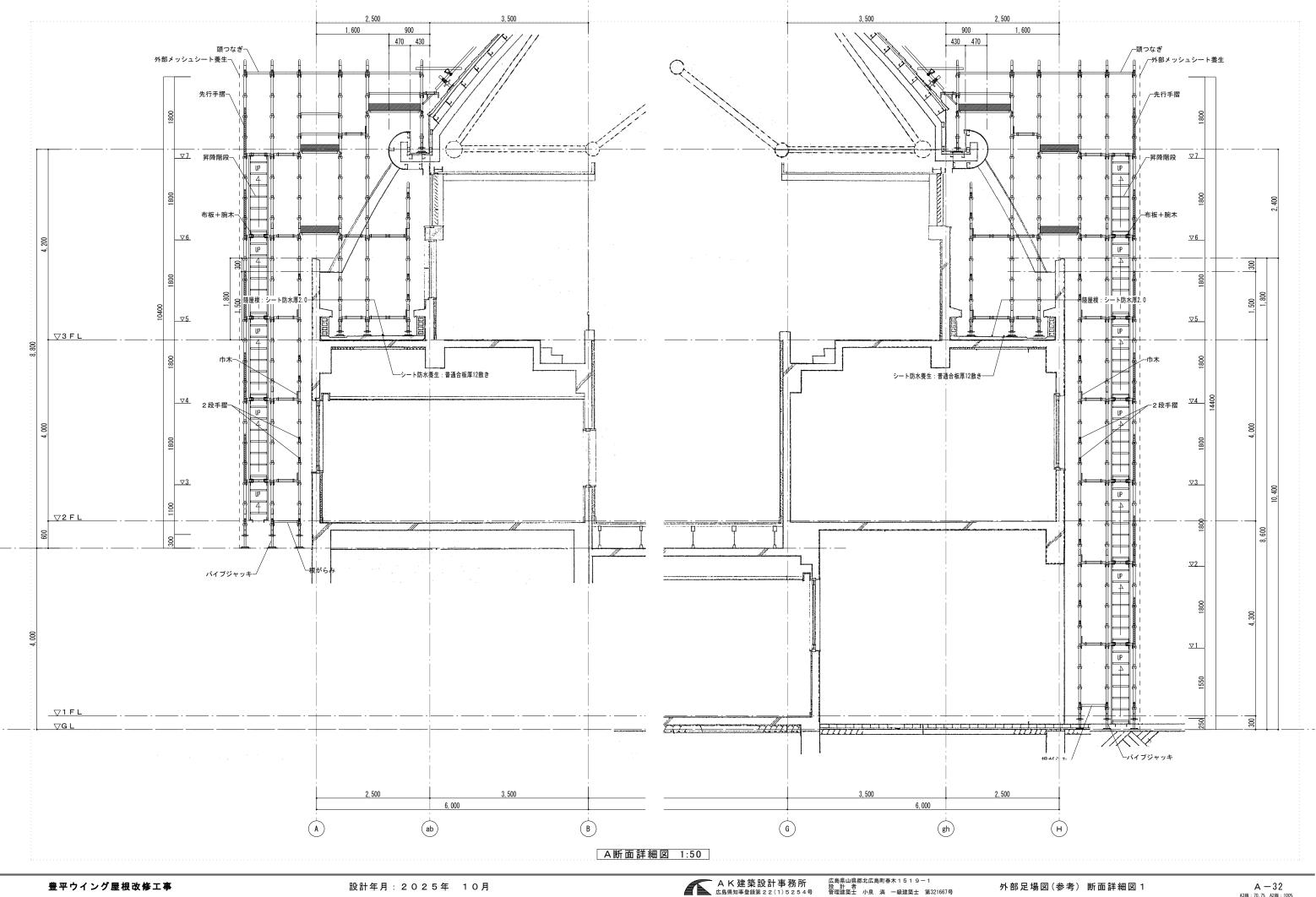
A — 27 A3版: 70.7% A2版: 100%

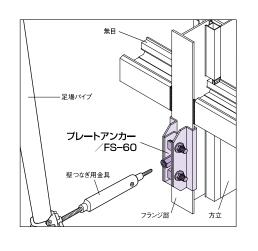




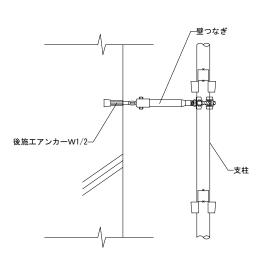


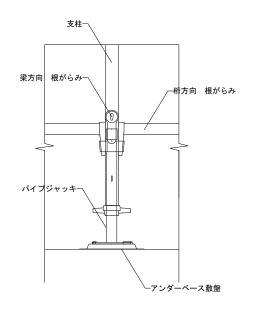






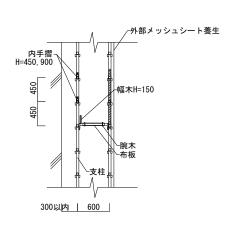
カーテンウォール壁つなぎ詳細図1



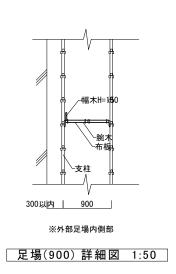


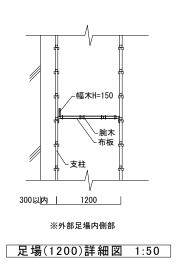
壁つなぎ詳細図2 1:10

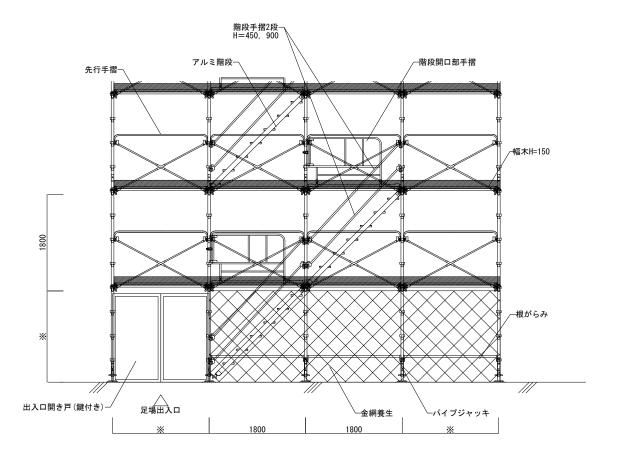
柱脚部詳細図 1:10



足場(600)詳細図 1:50







昇降階段詳細図 1:50

広島県山県郡北広島町春木1519-1 設計者 管理建築士小泉満一級建築士第321667号

I. 工 事 概 要		(1) 工事完成図書引渡書A4版 2部 (2) 完成図書	- 2E	8. 他工事との取合い	図面に記載されていない工事区分は、別紙工事区分表による。	発 1	√燃料系発電装置) 1. 電気方式 ・高圧 ・低圧
1. 工事名称 : 豊平ウイング屋根改修工事	般 ※建築工事に準ずる	(3)完成図面・施工図面二折リ製本A3版製本 1部	般 # 29	9. 天井仕上げ区分	() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。	電 2	
2. 工事場所 : 広島県山県郡北広島町都志見12609	八 通	(4)縮小完成図面・施工図面二折り製本A4版製本 2部 (5)工事写真	ᄷ	0. 配線図記号その他	(1)EEF1.6-20×2は、EEF1.6-40を使用してもよい。	旗 2	2. 発電機容量kVA以上
5. Z.I.M.S.	事	(工事中写真A4版カラーサービス版) 1部 (完成写真A4版カラーサービス版) 2部	事	0. 的核因此与"(0)尼	(2)EMケーブルの表記は警報用及び同軸ケーブルを除き「EM-」を省略する。	3.	3. 燃料小出槽 返油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上限フロートは、通過形接点とする。
建 物 名 称 構 造 階 数 ^{建築基準法による} 消防法施行令 備 考 延べ面積 (m2) 別表第一の区分	項 	(6)電子成果品(電子納品)CDR 2部	項 3	1. 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。	4.	4. 燃料種別・軽油・水重油
豊平ウイング RC造一部S造 3階 4068.42		(8) 工事概要調書A4版 2部			(1) 風圧力 風速 (Vo= ・30 ・32 ・34 m/s) 地表面粗度区分 (・I ・II ・III ・IV)		〈太陽光発電装置〉
		(9) 諸官庁届出書類一覧表A4版 1部 諸官庁届出書類(正) A4版 1部			(2) 積雪荷重	1.	1. 太陽電池アレイ 公称出力 WW以上 交流出力の電気方式相線V
		(10) 運転操作説明書A4版製本·取扱説明書 1部			建設省告示第1455号における区域 別表 ()	2	2. パワーコンディショナ 定格容量 kW以上 自立運転機能 (・有 ・無)
		(11) 展開接続図A3版製本 部 (12) 保全管理台帳A4版・設備台帳A4版 部	32	2. 呼び線	長さ1m以上の入線しない電線管には1.2mm以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。	3.	3. 表示装置 · 液晶 · LED表示装置
A T京孫□ (○ (10) \		(13) 型式台帳 式 ※型式台帳は、監督職員が指定する様式で作成する。建物で使用する部材、機器を記入	33	3. 露出配管の固定保護	2.5m以下のサドル及びダクターには保護を行う。	4	4. 連系する電力系統 ・高圧受電みなし低圧連系 ・高圧連系 ・低圧連系
4. 工事種目 (⊙ 印の付いたものが対象工事種目) 建物別及び屋外 エ 事 種 別		し提出すること。	34	4. 屋上・屋側等への設置	 建築物(構造体)に直接設置するプルボックス、各種盤及びダクターには周囲にシール		1. 足水する電力水制 同江文電がなる防江足水 同江足水 防江足水
工事種目 豊平ウイング		│ ※建築工事に伴う工事の提出部数は,建築工事に合わせる。 │ ※工事写真は「営繕工事写真作成要領」によるほか監督職員の指示による。	1	機材の周囲処理	処理を行う。	## 増	・時報及び自動放送(体操放送等)はアッテネータを経由した回路とする。
電灯設備		※既存完成図 (CADデータ含む) の修正を行う (間仕切・室名も現状に合わせて修正する)	3	5. 官公署への手続き	工事の着手、施工、完成にあたり、関係官公署その他関係機関への必要な届出手続き等	声	- 増幅器の入出力配線と外部配線(壁ボックス等)の接続はコネクタによる。 (一斉回路は使用しない)
動力設備	(7.) 施工図等	³⁷ 。 別契約の関係工事との取合いを十分に打合せ、各現場代理人捺印の上提出する。なお、			を遅滞なく行う。	設	(月回師は使用しなり)
• 電熱設備	7,7 162 124	当該建物の取得する施工図の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲	30	6. 工事現場の表示	現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する。 ※工事名等の表示板 (900mm×600mm) ・ 工事概要等の説明看板 (900mm×600mm)	備	
● 雷保護設備 取外し・再取付● 受変電設備	8. 足場	するものとする。 本工事で設置する。 ・外部足場 (種) ・内部足場 (種)				そ	1. 機器取付高
・ 定み能設備・ 電力貯蔵設備		本工事で設直する。 *****	3	7. 交通誘導員	作業期間,交通誘導員を(人/日)配置すること。	の	機器取付高は下記を標準とする。ただし,天井高3m以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と
 ◆ 発電設備 	10. 監督職員事務所	本工事で設置する	38	8. 工事中情報共有システム	(1)本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率		協議する。
• 構内情報通信網設備	11. 受注者事務所その他	構内につくることができる			化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中 情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること。		名
椿内交換設備	12. 建設発生土の処理	※ 現場説明書の施工条件明示による			(2) 本工事で使用する情報共有システムは次とする。 広島県工事中情報共有システム		カ 共 引込開閉器 床 上~中 心 1,800~2,200 声 壁付アッテネータ " 1,300
• 情報表示設備		- 構内指示場所に敷き均し ・ 構内指示場所に堆積			https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html		通
映像・音響設備拡声設備	13. 非破壊検査	はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に非破壊検査を行い監督職員に報告する。			(3)監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者(以下「サービス提供者」という。)との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。		ホーム分電盤 天井下~上 端 200 ベル、ブザー、チャイム " 2,300
- MA™AX III - 誘導支援設備		探査方法は電磁誘導式を原則とする。放射線透過検査等による埋設物の調査実施する			(4) 受注者は、監督職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。		スイッチ 床 上~中 心
・ テレビ共同受信設備	14. 既存躯体への穿孔	場合, 範囲は監督職員の指示による。なお、検査費は別途とする。 穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる	39	9. 電子納品	電子成果品を「営繕工事電子納品要領」に基づき作成する。		電 " 多価能化" 年代 円形金) " 1,100 電源 相 床 上~下 項 300
監視カメラ設備	2011 AETT - V/27 16	付属装置等を用いて施工すること。			https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/nouhin/index02.html ※ 工事管理ファイル ・ 施工計画書 ・ 工程表 ・ 打合せ簿		"(自動・手動切替)" 1,800
• 駐車場管制設備	15. あと施工アンカー	施工後確認試験 試験方法 引張試験機による引張り試験			・機材関係資料 ・施工関係資料 ・検査関係資料 ・発生材関係資料		コンセント (一般) " 300 導 壁付インクーお/L記以外) " 1,300 " (和室) " 150 支 壁付押がり/多機能/(小) " 900
防犯・入退室管理股備火災報知股備		試験箇所数 1施工単位に対し1本以上	\Box		※ 完成図 ・ 保全に関する資料 ※ 施工図 ※ 完成写真 ・ その他		" (台上) 台 上~中 心 150 操 壁付押ボ タン (多機能H/V) " 400
火火物和政備中央監視制御設備		対象機器 (・配電盤・非常用発電機・直流電源装置・変圧器・) 確認強度 対象機器ごとのアンカーボルト1本に作用する引抜き力以上	電便	配線器具	○接地極付きコンセント(2P15A)はプラグ無しとする。○防水形コンセントはプラグ無しとする。		"(主間) 床 上~中 心 800~1,300 (本庭倒時用 (事権子用居室) "400 400 身薄者用(パラヤル(子機)) 標準図による
 ◆ 医療関係設備 	16. 電気工事士	最大電力500kW以上の場合においても、第1種電気工事士により施工を行う。	灯		○ハーネスジョイントボックス用OAタップのケーブルは、ハロゲン及び鉛を含まない		灯 "(車椅子用ペッド周辺) " 900 テ 機器収容箱 天井下~上 端 200
 構内配電線路 	17. 耐震措置	設備機器の固定は次に示す設計用地震力に耐える方法とする。	備		材料とする。		'' (トイレ) '' 300~400 し フラケット (一般) '' 2,100~2,300 共 '' (和室) '' 150
• 構内通信線路		ただし、重量1kN以下の軽量な機器については、設備機器の製造業者の指定する方法で 確実に行えばよいものとする。	2	. 照明器具	(1)LEDの光源色は別図面に指定がある場合を除き下記による。		ブラケット (一般)
5. 指定部分 ※ 無し ・ あり(工期 令和 年 月 日)		(1)機器の据付け及び取付け			LEDの光源色 (・電球色 ※昼白色)		# (鏡上) 鏡上端~中 心 150 信 信
対象部分:		設計用水平地震力は、機器重量 [kN] に、地域係数 (・1.0 %0.9 ・0.8) と 次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。			(2)LED照明器具の定格入力電圧はユニバーサル電圧 (100V~242V) に対応する ものとする。		動 壁掛形制御盤 床 上~中 心 1,500(上端1,900以下) 受信機・副受信機 床上~操作部 800~1,500 手元開閉器 " 1,500 火 機器収容箱 " 800~1,500
(改修工事の場合の部分使用 ※ 無し ・あり) II. エ 事 仕 様		設計用標準水平震度 特定の施設 一般の施設	3.	8. 照明制御の照度測定等	明るさセンサーによる照明制御を行う部屋は、照度測定を行い、測定表を監督職員に		カ 操作スイッチ " 1,300 数 発信機 床上~中心 800~1,500
1. 共通仕様		設置場所 機器種別 特定の施設 一般の施設 一般の施設 重要機器 一般機器			提出する。なお、測定箇所は監督職員の指示による。 照度測定(100%点灯時(※夜間・・)) (調光制御点灯時(※夜間 ※昼間))		端子盤 床 上~下 端 300 知 ベル 天井下~上 端 200 表示灯 " 200
(1)特記仕様及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(電気		上層階 機 器 2.0 1.5 1.5 1.0	,	. 照明制御装置設定器	設定器機能 ・アドレス設定 ・グループ設定 ・パターン設定		内 株女会相 大井下~上 地 200 表示別 " 200 交 壁付アウトレット 床 上~中 心 300 ガス漏れ中継器 天井下~中 心 300
設備工事編)(令和4年版)」(ただし改修工事の場合は「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」)(以下「標準仕様書」という)及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)			4	. 照明制御表直設定裔	・タイムスケジュール設定		授 " (和室) " 150 プラス 検知器 (都市ガス) 天井下~中 心 300
(以下「標準図」という)による。 (2)機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。		機器 1.5 1.0 1.0 0.6	5	i. 多重伝送リモコンアドレス	納入数		壁付電話機 " 1,300 検 " (LPガス) 床 上~上 端 300 需 壁掛形親時計 " 1,500(上端1,900以下) 知
(3)本工事は工事中及び完成後に必要に応じ次の調査を行うため、発注者より連絡があれば対応すること。		中間階 防振支持の機器 1.5 1.5 1.0	"	送信器	MY/W X III . III		電
ア 公共事業労務費調査…工事中に実施(調査票の記入提出、発注者実施への協力等) イ 契約不適合調査…建設工事請負契約約款第46条の5に定める期間内		水 槽 類 1.5 1.0 1.0 0.6 機 器 1.0 0.6 0.4	6.	i. 非常照明·誘導灯	納入数 ※1個 ・ 個		21
2. 特記仕様 (1) 項目は、番号に〇印の付いたものを適用する。		地下及び1階 防振支持の機器 1.0 1.0 0.6		自己点検送信器			 コリンズ登録について 受注者は受注時又は変更時において請負金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)
(2) 特記事項のうち選択する事項は〇印の付いたものを適用する。ただし、〇印のない場合は※印を適用する。		水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6 上層とは2~6階建の場合は最上階, 7~9階建の場合は上層2階, 10~12階建の場合は	動	- インパータ装置の規約効率	三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は次の数値以上とする。		に基づき,受注,変更,竣工,訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し,監督職員の確認を
(3) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・品質性能・工法検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等(条例含む)に抵触する場合には、関係法令等の遵守(1.1.13)を優先する。		上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。	カ		電動機出力 (kW) 0.4 0.75 1.5 2.2 3.7 5.5 7.5 11		受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。 なお、途中変更時の登録が必要な場合とは、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。
		中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。 水槽類には燃料小出し槽を含む。	設備		規約効率(%) 86.0 88.5 92.0 93.0 94.0 94.0 94.5 94.5		3. 防振ゴム等の製造検査
		重要機器は次のものを示す。 (・配雷盤・非常用発雷機・直流電源装置・交流無停電電源装置	N43		電動機出力(場) 15 18.5 22 30 37 45 55 75		本工事の施工に当たり,東洋ゴム化工品(株)又はニッタ化工品(株)で製造された製品や材料を用いる場合には,使用するまでに第三者機関による品質を証明する書類を提出すること。
□ 施工条件 現場説明書による。 カシュネッタ (大学学) オーター フェスト カシュネッタ (大学学) オーター フェスト カシュネッタ (大学学) オーター フェスト フェスト フェスト フェスト フェスト フェスト フェスト フェスト		·交換機 · 火災報知受信機 · 中央監視制御装置 · 通信総合盤 ·)			規約効率(%) 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5		別表一「外部機関等による評価済み機材表」
段 ② 工事安全計画書 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する。		(2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。			備考 (1) 規約効率はJIM-TR245「汎用インパータの規約効率」により算出した値とする。		品目機材名
通 ③ 施工調査 施工に先立ち、改修工事関連(施工部位により既存性能を損なうおそれのある)部分		(3)横引き配管等の耐震支持は、施設の分類に応じたものとする。			(2) 0.4kWの効率はJIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V。		・ LED照明器具(一般屋内用に限る)
事 の事則調金を行い監督職員に報告書を提出する。 () 調査を行う前に監督職員に調査計画書を提出する。	18. 電線類	(1) EM電線類で規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まないものとする。			IP4X, 6 極, 50Hzの電動機を駆動したときの値とする。 (3) 0.75kWの効率はJIS C 4213「低圧三相かご型誘導電動機トップランナーモー		・
		(2)通信ケーブルでJCS規格にない対数のケーブルはJCS規格に準じたものとする。 (3)盤内配線はEM電線を使用する。ただし、製造者標準品は除く。			ター」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。		・ 盤類 分電盤 (実験盤を含む) キュービクル式配電盤 制御盤
・アスベスト含有設備資機材(・配線用遮断器・・・・・)	19. ケーブルの種類	EM-高圧架橋ボリエチレンケーブルは、JIS4935「6600V架橋ボリエチレンケーブル(3層押出型)」に	構 1	. 型式	※ボタン電話装置・交換装置		高圧スイッチギア(『神形) 高圧スイッチギア(『神形)
4) 発生材の処理 引渡しを要するもの ※無・有(・金属類・盤類・電線、ケーブル・) 特別管理産業廃棄物 ※無・有・本工事において調査を行う。		よるものとし、次による。	交 2.	保安器用接地	※本工事 ・別途工事		・ 高圧機器 高圧変流室断器 高圧変雷器 高圧進相コンデンサ
(・PCB使用機器 ・アスベスト含有設備資機材 (・配線用遮断器))		呼称(図示記号) 種 類	設 3.	. 壁掛電話機	送受話器の落下防止を施す。		高圧製流ヒューズ 高圧負荷開閉器 高圧変圧器 (特定機器) ・ 絶縁監視装置 高圧回路 低圧回路
特別管理産業廃棄物は関係法令に従い適切に処理する。 工事中、特別管理産業廃棄物が発生すると判明した場合、その処理方法は監督職員と協		6kV EM-CET (EE) 6600V トリブルレッウス型架橋ボリエチレン絶縁耐燃性ボリエチレンシースケーブル(6600V CE/F(EE))	JIII 4		埋設深さ 特記なきは地表面 (舗装がある場合は舗装下面) から300mm以上とする。		ベント形据置鉛蓄電池 据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
議する。 放射性物質を含むイオン化式感知器 ※ 無 ・ 有	20. 電線本数・管路等	分電盤,制御盤,端子盤などの2次側以降の配線経路,電線太さ,電線本数,管径など は監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。	構 「		建物側配管引込み部の地盤変位対応(沈下量 ・0.2m以下 ・0.6m以下 ・1.0m以下)		・ 蓄電池 制御弁式据置鉛蓄電池 シール形ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
製造業者又は販売業者に回収を委託する。 (・ 別途 ※ 本工事)	21. 露出配管の塗装	塗装する部分 ・居室 ()・廊下 ・屋上,屋側 ・屋外 ・機械室	配 2.	. 地中箱	蓋の記号表示 鋳型流込み (・電力 ※電気 ・) ↓ハンドホール内のケーブル支持等は、マンホールに準じて行う。		・ 交流無停電電源装置 (UPS)
再生資源化を図るもの ※無 ・有 (・蛍光管 ・HIDランプ ・小型二次電池) (1)本工事で発生した建設廃棄物は、広島県(環境県民局)及び保健所設置政令市(広	(付属品を含む)		電線。	÷========	アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋は、アスファルト舗装用とする。		
島市, 呉市, 福山市) が, 廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設(許可対象とならない中間処理施設にあっては, 廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設) で	22. 屋外露出配管の仕上げ	屋外露出配管(厚鋼電線管)で塗装を行わない場合は,溶融亜鉛めっき仕上げ [めっき付着量300g/㎡以上]とする。	路 3.	. 高圧負荷開閉器	※閉鎖形(中耐塩形) ・閉鎖形(重耐塩形) ・避雷器内蔵 ・地絡総電器付(※方向性 ・無方向性)		・ 中央監視制御装置 監視制御装置
│ 処理すること。ただし,建設廃棄物が,破砕等(選別を含む)により,有用物となった │			.	5EL 3.044	※別置制御装置までの制御ケーブルを付属すること。		4. 快適トイレモデル工事
場合、その用途に応じて適切に処理するものとする。 (2)本工事における再資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、(1)に揚げ	23. フラッシュプレートの材質	・金属製(ステンレス,新金属も含む)・樹脂製(使用場所)	4.	. 高圧ケーブルの端末部	高圧ケーブルの両端部にシースの縮み対策 (熱収縮テープによるシースずれ止め対策 等) を行う。		4. 状態トイレモデルエ事 本工事は快適トイレモデル工事(※発注者指定型 ・受注者希望型)であり、「快適トイレモデル工事 試行要領(令和4年6月1日一部改正)」に基づき実施するものとする。
る施設のうち受入れ条件が合うものの中から、運搬費と受入費 (平日の受入費用)の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資	24. カパープレートの用途別表示	シール等を貼付し、用途を表示する。	5.	. 高圧ケーブルの屋外	・一般形 ・耐塩形		試行要領(令和4年6月1日一部改正)」に基づき実施するものとする。 快適トイレチェックシートの様式は、「広島県の調達情報」の「様式集>建設工事関係、その他の契約
源化に要する費用(単価)は変更しない。	25. プルポックスの塗装	ステンレス製プルボックスの塗装 ※有(メーカ指定色又は指定色仕上)・無(素地仕上)	6.	端末処理 、照明用ポール	照明用ポールは配線用遮断器(トリップ機能なし)又はカットアウトスイッチ(素通		関係の様式」に掲載している。 「仏画宗の調達情報」の「株式宗ン建設工学展院」なり他の未的 関係の様式」に掲載している。 また、完成検査までに提出するアンケートは、「広島県の調達情報」の「入札・契約制度〉入札・契約
(3)本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物 については、広島県産業廃棄物埋立税が課税されるので、適正に処理すること。なお、	26. 屋上・屋側の	 ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛めっきを施したものとする。			しヒューズ) を設ける。ただし、ガーデンライトは除く。		また、元成検査までに提出するアンケートは、「広島県の調達情報」の「人札・契約制度〉人札・契約 制度関係要綱」に掲載している。
本工事では、広島県産業廃棄物埋立税相当額を見込んでいる。	支持金物等		構 1	施工方法	埋設深さ 特記なきは地表面 (舗装がある場合は舗装下面) から300mm以上とする。		5. 施工(業務)計画書への記載
(1)本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等品	27. 接地極	接地極の材料は次による。 接地の種類 記号 接地抵抗値 接 地 極	円		<u>建</u> 物側配管引き込み部の地盤変位対応 (洗下量 ・0.2m以下 ・0.6m以下 ・1.0m以下)		(1) 次の内容について、「その他」項目に記載を求める。ア 発注者から明示又は受注者が自ら行う「法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件」
を使用する場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。		♦ 共 同 接 地 E。 10Ω以下 EB×3連一 2組	信。	2. 地中箱	※の記号表示 鋳型流込み(※通信		イ 上記アの内容について「不測の事態等が生じた場合の対応方法」 ウ 上記ア、イの内容について「現場作業に従事する者に対する周知の方法」
また、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)に基づき策定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特		♦	線		ハンドホール内のケーブル支持等は、マンホールに準じて行う。		(2) 「施工方法」等の関連する項目に,許可承諾条件等を適切に反映するよう求める。
記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう 努めるものとする。		+ B 種 E _a Ω以下 EB×2連-2組 + C 種 E _a 10Ω以下 EB×3連-2組	P-[]		アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋は、アスファルト舗装用とする。		(3) 「法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件」等の変更が生じた場合は、施工(業務)計画 書の重要な変更が生じたものとして取り扱うこととし、変更施工(業務)計画書の提出を求める。
(2)別表-1に示す機材等を使用する場合は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明			雷 1.	. 大地抵抗の測定	工事着手前に大地抵抗率を測定し、測定表及び接地極省略判定記録書を監督職員に 提出する。		ニューション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項 を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合		→ 高 圧 避 雷 器 E _w 10Ω以下 EB×3連- 2組 → 交 換 機 用 E, 10Ω以下 EB×3連- 2組	護品。	控掛シフニ /	・構造体利用接地極 ・A型接地極 ・B型接地極 ・JIS A 4201-1999		
は証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データを整備されていること		* 高 圧 避 雷 器 E	備 2.	. 接地システム			
②生産施設及び品質の管理が適切に行なわれていること		[♦ 電話引込口の保安器用 E _i 100Ω以下 EB×1	受力	. 受変 電設備容量 . 変圧器	kVA kVA		
③安定的な供給が可能であること ④法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること			電 2	炎江奋	次のものを付属させる。 ・移動車輪 (75kVA以上のもの) ・防震ゴム ・ダイヤル温度計 (置針付)		
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。		(連結及び単独の場合、EBはD=14 L=1,500又はW=40 L=1,200とする) (E. E., E., E., E., E.O場合、EBはD=10 L=1,000又はW=30 L=900とする)	設備。	. 予備品等	モールド変圧器の表面は充電部とみなし、注意標識を取付ける。 標準仕様書によるほか電力ヒューズ現用定格値のものを現用数		
⊗/ルメンピ 体リサツ白木性明/ご正たづイレくじづして。		(L ₀ , L _{0t} , L _{0t} , L _{1t} , L ₀ の場合, EDIより=10 L=1,000又はW=30 L=900とする)	μ μι Ο.	· I NA HH 44	ホール ホールのの162 地グレー へ気用に目にいしいを残用数		

設計年月:2025年 10月 A K 建築設計事務所 広島県知県郡北広島町春木1519-1 農計者 管理建築士 小泉 満 一級建築士 第321667号 電気設備工事 特記仕様書

E — 01 A3版: 70.7% A2版: 100%

豊平ウイング屋根改修工事

